

北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館)

年 報

平成 24 年度



ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は、平成 24 年 11 月 3 日に開館 10 周年をむかえました。この節目を前に、博物館ではさらなる魅力向上をめざし、「進化計画」と銘打って、足かけ 5 年をかけて準備を進めてきました。同年 12 月 3 日より閉館して展示等施設改修工事を行い、平成 25 年 3 月 23 日リニューアルオープンしました。本年度の年報はこのリニューアルオープンの報告も兼ねています。

今回のリニューアルで、自然史ゾーンでは新たに大型標本を追加して陸海空の史上最大級の動物化石を一堂に展示し、あるいは最新の学説にもとづく展示内容に刷新しました。歴史ゾーンでは明治時代以降の北九州の展示を大幅に拡充し、祭りや農業に関する展示を刷新しました。

このように新しくなった博物館はおかげさまで好評を博し、入館者数も大幅に増加して、多くのお客さまでにぎわっております。これもひとえに多くみなさまに支えていただいているお陰です。この場をお借りして御礼申し上げます。

私たちはこれに満足することなく、さらなる「進化」をめざして取り組んでいきたいと決意を新たにしています。今後も引き続きご指導・ご協力たまわりますようお願い申し上げます。

平成 26 年 3 月

北九州市立自然史・歴史博物館

館長 伊藤明夫

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

<理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

<方向性>

知的アクセス権を保障する博物館——知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館——将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館——社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

ごあいさつ

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

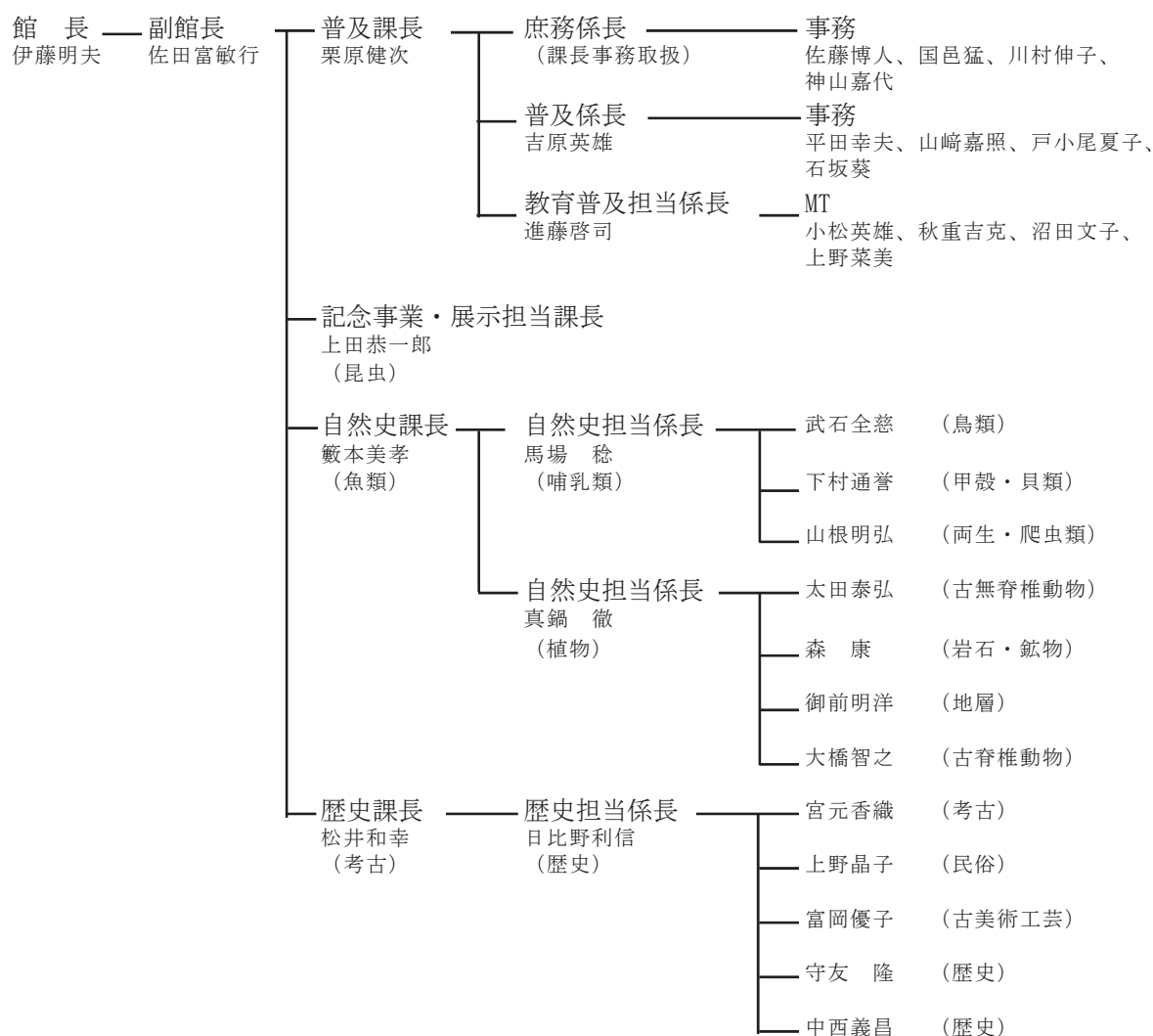
目次

	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 平成 24 年度予算.....	4
4. 施設概要.....	5
5. 沿革.....	6
6. 入館者の状況.....	9
7. 視察受入状況.....	10
8. 報道一覧.....	11
9. リニューアル.....	14
10. 特別展.....	20
11. ぽけっとミュージアム企画展.....	22
12. その他の事業.....	27
13. 教育普及活動.....	28
14. 博物館ボランティア（シーダー）の活動.....	33
15. 自然史友の会の活動.....	34
16. 歴史友の会の活動.....	35
17. 資料の収集保存状況.....	36
18. 資料の特別観覧<研究他>状況.....	37
19. 資料の貸出状況.....	37
20. 画像等資料の貸出状況.....	38
21. 学芸員研究業績（自然史）.....	39
22. 学芸員研究業績（歴史）.....	43
23. 博物館刊行物.....	44

1. 組織・運営体制

(1) 平成 24 年度組織

(平成24年5月1日時点)



(2) 名誉館員

- 太田 正道 (2002. 11. 3～)
- 藤丸 詔八郎 (2005. 4. 1～)
- 戸来 義臣 (2007. 4. 1～)
- 税田 昭徳 (2007. 4. 1～)
- 藤井 厚志 (2008. 4. 1～)
- 小野 勇一 (2010. 4. 1～)
- 岡崎 美彦 (2010. 4. 1～)
- 永尾 正剛 (2011. 4. 1～)
- 有川 宜博 (2012. 3. 1～)

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員（任期 平成 23 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日）

会長	中越信和	広島大学大学院国際協力研究科教授
副会長	泉優佳理	北九州市環境審議会委員
	伊澤雅子	琉球大学理学部教授
	上山敬義	北九州市立中央中学校校長
	木村洋子	アトリエ PAO 一級建築士事務所代表 東田まちづくり協議会
	佐藤睦子	梅光学院大学博物館学芸員（歴史）
	関口博之	NHK 北九州放送局局長
	竹治あけみ	北九州市立青葉小学校校長
	錦織亮介	北九州市立大学名誉教授
	真鍋 真	国立科学博物館地学研究部生命進化史研究グループ研究主幹
	森田 稔	九州国立博物館副館長

(2) 開催日時

平成 24 年 9 月 21 日（金） 13:30～15:50

(3) 内容

1) 平成 23 年度事業実績

- ・入館者数・・・375,6490 人
- ・特別展開催実績
「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(H. 23. 4. 23～5. 31)、「世界の両生類・爬虫類大集合！」(H. 23. 7. 16～9. 4)、「大連モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展」「鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」(H. 23. 10. 7～12. 11)、「小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別公開」(H. 23. 12. 22～25)、「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(H. 24. 1. 2～2. 12)、「アンモナイトのふしぎ」(H. 24. 3. 10～5. 25)

2) 平成 24 年度事業計画

- ・博物館の組織運営体制
教育委員会から市民文化スポーツ局への移管報告など
- ・予算
- ・博物館展示・施設等改修計画
- ・開館 10 周年記念式典
- ・特別展・企画展開催計画
- ・教育普及活動計画
- ・ボランティア（シーダー）の活動計画

- ・自然史友の会、歴史友の会の活動計画

3) 市制 50 周年記念事業について

「北九州市の宝もの」、「世界の昆虫展」、「邪馬台国がみえる！日本古代の原風景」、「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」

4) 報告事項

- ・仁川広域市立博物館・旅順博物館との交流事業
 - 学芸員の派遣交流（旅順博物館館員 H23. 10. 6～16）
 - 展示交流事業（大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展）
 - 東アジア友好博物館館長会議（H. 23. 7. 20 事前協議 於:仁川広域市立博物館、H. 23. 10. 19 館長会議 於:仁川広域市立博物館、H. 24 旅順博物館で予定）、
- ・トリップアドバイザーへの掲載
- ・スマートコミュニティー
- ・日本地質学会の表彰について

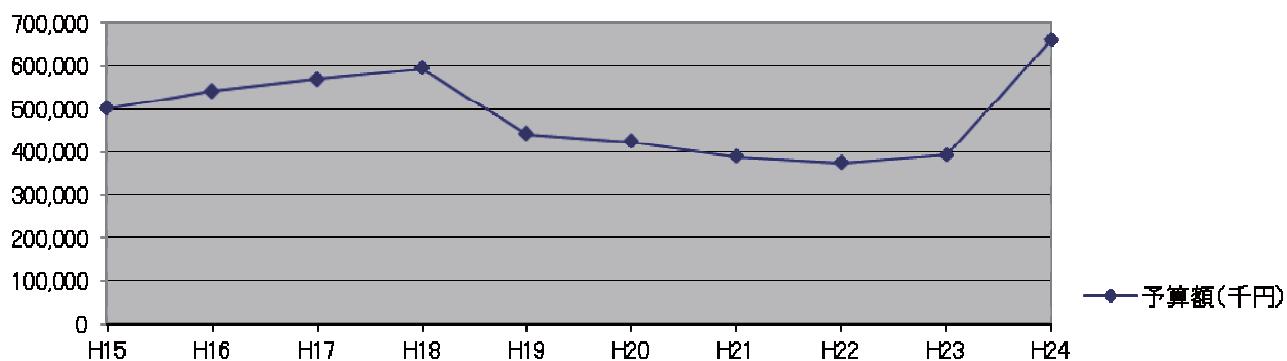
3. 平成 24 年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (入館料など)	128,335	企画展・特別展開催経費	58,162
ミュージアムショップ使用料など	1,267	資料整備・調査研究経費	19,240
刊行物販売など	4,210	教育普及経費	5,582
社会資本整備総合交付金	120,000	博物館維持管理経費等	276,592
社会教育債	162,000	博物館展示・施設等改修事業	300,000
計	415,812	計	659,576

博物館予算の推移

年 度	H. 14	H. 15	H. 16	H. 17	H. 18	H. 19	H. 20	H. 21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H. 14. 11. 3 開館		内、太陽光 発電設備整 備 32,000	内、太陽光 発電設備整 備 60,000	内、太陽光 発電設備整 備 108,000			
年 度	H. 22	H. 23	H. 24					
予算額	372,731	392,184	659,576					
備 考			内、博物館展示・ 施設等改修事業 300,000					

博物館予算の推移 (グラフ)



4. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造） 地上 3階
各室面積

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,139	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール(PMを除く)	1,855	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム(PM)	253	生物系研究室(植物・昆虫)	29	副館長室	25
エンバイラマ館(リサーチゾーンを含む)	1,067	生物系研究室(動物・魚類)	29	事務室	163
自然発見館(バイオリウムを含む)	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示(カルチャーモールを含む)	1,755	燻蒸室(前室を含む)	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム	89	解剖室	46	救護室	21
		無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室S	30
		液浸標本処理室	30	会議室R	30
情報部門	1,111	技工室	60	会議室X	49
		整理室	60	外来市民研究室	37
ホール(ホフソギャラーを含む)	509	暗室(前室を含む)	26		
ガイド館(倉庫2を含む)	386	撮影室	41		
情報館	216	電子顕微鏡室	40		
		コンピューター室	28		
		保存科学室	40		
探究部門	204	薬品室・特殊薬品室	25		
実習室	123	シャワー室	6		
講座室	81	器材倉庫	14		
収蔵部門	2,506				
荷解室	96			サービス部門	463
一時保管室	64			ミュージアムショップ	156
組立室	52			休憩ルーム	206
冷凍室・冷蔵室(前室を含む)	49			休憩デッキ	101
地学系収蔵庫	202				
液浸標本収蔵庫	221			供用部門	5,093
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫(金属器を含む)	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83				
				合計	17,011

5. 沿革

昭和 50(1975)年	【歴史】	8月	北九州市立歴史博物館開館 (8/1)
昭和 51(1976)年	【歴史】	1月	豊前修験道・英彦山展
	【自然史】	5月	小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン科魚類化石 ディプロミスタスが発掘される
	【歴史】	10月	洞海湾の歴史展
	【自然史】	10月	北九州産魚類化石展「北九州市の魚類化石ー化石から見た北九州ー」 主催：北九州市教委・北九州市産魚類化石展示実行委員会
昭和 53(1978)年	【自然史】	4月	戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置
	【自然史】	10月	マッコウクジラの生の骨が到着
昭和 54(1979)年	【自然史】	1月	「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7)
昭和 55(1980)年	【歴史】	7月	日韓文化交流展ー古代のロマンを求めてー
昭和 56(1981)年	【自然史】	5月	北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2)
昭和 58(1983)年	【考古】	8月	北九州市立考古博物館開館 九州最初の考古学専門館として小倉北区金田 一丁目に開館 (8/1)
	【歴史】	10月	北九州のまつり芸能展
昭和 59(1984)年	【自然史】	9月	友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の昆 虫」展を開催
	【歴史】	10月	北九州甲冑展ーよろい・かぶとの歴史ー
	【自然史】	12月	響灘沖から巨大珪化木の引き上げ
昭和 60(1985)年	【歴史】	10月	「小倉藩創始 細川家の歴史展」
昭和 61(1986)年	【自然史】	8月	開館5周年記念特別展 「中国の動物と恐竜の世界展」
昭和 62(1987)年	【歴史】	10月	わが町の宝 「北九州市の指定文化財展」
昭和 63(1988)年	【考古】	8月	開館5周年記念「北九州の中国陶磁展」
平成 2(1990)年	【歴史】	10月	関門の潮流展ー翔けぬけた鎌倉武士たちー
平成 4(1992)年	【自然史】	3月	開館10周年記念出版物として「山田緑地の自然」を発行
平成 5(1993)年	【考古】	4月	考古博物館友の会発足
	【考古】	10月	開館10周年記念「終末期の古墳展」
平成 7(1995)年	【考古】	5月	展示解説ボランティア制度発足
	【歴史】	8月	戦後50周年記念 北九州平和資料展ー戦時下の市民のくらしー
平成 8(1996)年	【自然史】	7月	展示解説ボランティア制度発足
	【総合】	10月	「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人東京大学名誉教 授)が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館か らなるシャイン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告
平成 10(1998)年	【考古】	8月	開館15周年記念 「西と東の縄文土器展」
平成 11(1999)年	【総合】	6月	(仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
平成 12(2000)年	【歴史】	10月	伊能忠敬と九州展
平成 13(2001)年	【総合】	3月	(仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
平成 14(2002)年		11月	北九州市立自然史・歴史博物館オープン (小野勇一館長) (11/3) 開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3ー12/28 : 56日間)
平成 15(2003)年		3月	開館記念特別展「COME BACKーよみがえれ文化と生きものたちー」 (3/1ー4/6 : 37日間)
		4月	特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」 (4/26ー6/8 : 44日間 : 25,871人)
		7月	特別展「発見！虫王国」(7/19ー8/31 : 44日間 : 79,687人)
		9月	特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19ー10/13 : 25日間 : 12,828人)
		10月	特別展「発掘された日本列島 2003」(10/26ー11/30 : 36日間 : 11,260人)
		12月	企画展「絵で見る植物の世界」(12/6ー12/23 : 18日間)

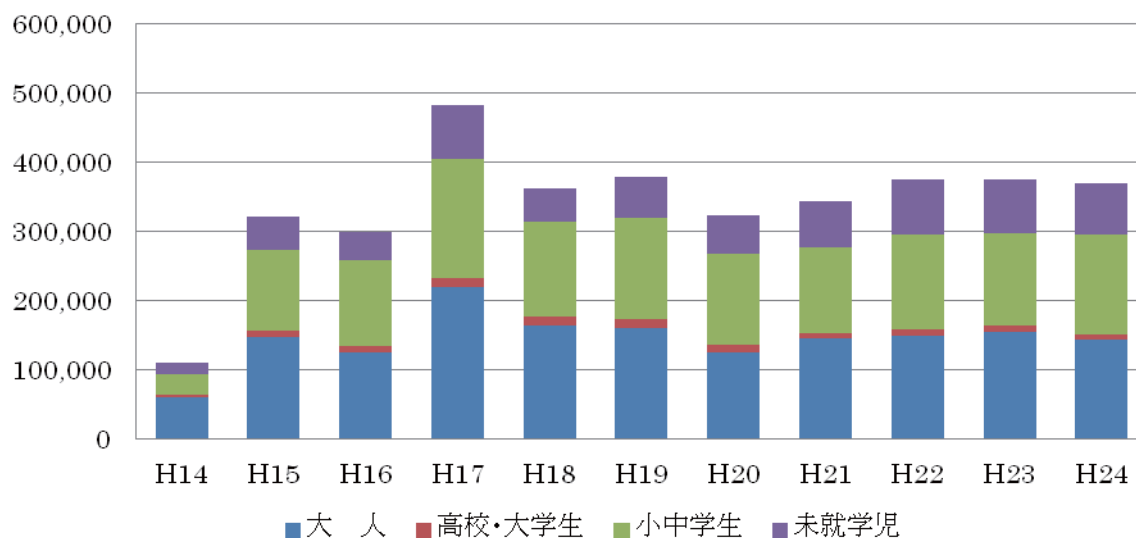
- 平成 16(2004)年
- 1月 企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1: 31日間)
 - 3月 企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11: 38日間)
 - 4月 特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23: 31日間: 14,262人)
 - 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5: 51日間: 50,712人)
 - 10月 企画展「一片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26: 87日間)
 - 企画展「襦袢の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28: 52日間)
- 平成 17(2005)年
- 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20: 50日間: 11,590人)
 - 3月 特別展「なぜ?なに? 動物ワールド」(3/19～5/8: 51日間: 26,638人)
 - 7月 特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4: 51日間: 76,623人)
 - 10月 企画展「鶏民芸品展～秋篠宮コレクション～」(10/8～11/20: 44日間)
 - 入館者 100万人達成! (10/26)
 - 11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11: 24日間: 3,739人)
 - 12月 特別展「恐竜博 2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31: 99日間: 207,397人)
- 平成 18(2006)年
- 4月 企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28: 30日間)
 - 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ 2006」(7/15～9/3: 51日間: 76,008人)
 - 9月 企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26: 65日間)
 - 12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31: 104日間: 63,811人)
- 平成 19(2007)年
- 4月 企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6: 22日間)
 - 7月 開館 5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2: 58日間: 96,103人)
 - 10月 開館 5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11: 31日間: 2,580人)
 - 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11: 52日間: 18,658人)
- 平成 20(2008)年
- 3月 入館者 200万人達成! (3/22)
 - 企画展(開館 5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6: 16日間)
 - 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11: 23日間)
 - 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20周年記念「近代北九州百年の歩み」
於: 仁川広域市立博物館 (7/19～9/21: 65日間)
 - 特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」
(7/12～8/31: 51日間: 56,360人)
 - 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20周年記念「開港場仁川の情景」
於: いのちのたび博物館 ぽけっとミュージアム (8/2～10/5: 65日間)
 - 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30: 51日間: 6,659人)
- 平成 21(2009)年
- 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8: 38日間: 6,513人)
 - 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10: 71日間)
 - 5月 企画展「自然史友の会って何? 友の会 30年のあゆみと活動」(5/23～6/14: 23日間)
 - 7月 特別展「恐竜ラボ 2009～よみがえれ! 恐竜ワールド～」(7/18～8/31: 45日間: 64,628人)
 - 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23: 66日間: 30,266人)
- 平成 22(2010)年
- 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21: 51日間: 6,567人)
 - 2月 大連市旅順博物館と友好交流に関する協定を締結 (2/6)
 - 3月 特別展「どうぶつ大集合! 肉食系? 草食系? なにをたべているのかな?」
(3/20～5/30: 72日間: 28,327人)
 - 4月 伊藤明夫館長が就任
 - 7月 特別展「昆虫大接近! ～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5: 51日間: 71,641人)
 - 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」
(10/9～11/28: 51日間: 4,881人)
 - 11月 仁川広域市立博物館および大連市旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」
調印 (11/5～7)

- 平成 23(2011)年
- 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)
入館者 300 万人達成！ (1/15)
 - 2月 入館者 300 万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
 - 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)
 - 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)
 - 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」(10/7～12/11：66日間：11,493人)
 - 12月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
- 平成 24(2012)年
- 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
 - 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：25,121人)及び「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
 - 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
 - 10月 特別展「いのちのたび博物館 10年のあゆみ～とおきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2：44日間：30,283人)
 - 11月 開館 10 周年記念行事 (11/3-4)
 - 12月 リニューアル工事閉館 (12/3-翌 3/22)
- 平成 25(2013)年
- 3月 リニューアルオープン (3/23)

6. 入館者の状況

	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
入館者総数 (人)	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100%)	3,426,608
	24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100%)	3,796,319

※平成14年度は11/3～11/10 無料期間 51,905 人を累計に含む
 ※平成24年度は12/3～3/22 改装工事休館



*このほか、29 ページに記しているように各種の教育普及活動を実施、普及講座だけでも約 2,000 名の方達に利用していただいている。これら講座等の参加者は上記入館者数には含まれていない。

7. 視察受入状況

平成24年度 視察訪問受入れ状況

No.	年月日	申請者	訪問者・団体	人数
1	平成24年4月11日	総務企画局アジア交流課	大韓民国仁川広域市 環境緑地局長 ほか	4
2	平成24年4月27日	(財)北九州市芸術文化振興財団	全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会出席者	30
3	平成24年6月1日	産業経済局観光・コンベンション課	中国上海メディア関係者	11
4	平成24年7月19日	中央卸売市場	福島市副市長及びミスピーチキャンペーンクルー	14
5	平成24年7月20日	建設局公園緑地部 到津の森公園担当課	駐日マダガスカル大使館参事官ほか	6
6	平成24年7月21日	産業経済局観光・コンベンション課	中国上海メディア	8
7	平成24年7月24日	釜山広域市海洋自然史博物館	釜山広域市海洋自然史博物館	2
8	平成24年7月26日	環境局	フランス国地方行政官ほか	11
9	平成24年8月5日	子ども家庭局青少年課	日本海洋少年団	180
10	平成24年8月22日	兵庫県丹波市	市職員(恐竜を活かしたまちづくり課)	2
11	平成24年8月23日	大野城市教育委員会	(仮称)大野城心のふるさと館整備検討委員会	13
12	平成24年10月24日	(公財)宮崎文化振興協会 宮崎科学技術館	宮崎科学技術館	1
13	平成24年10月25日	名古屋市議会	名古屋市議会議員	1
14	平成24年10月26日	保健福祉局保健医療部生活衛生課	保健福祉局保健医療部生活衛生課	13
15	平成24年11月1日 平成24年11月2日	福岡県教育庁振興部高校教育課	福岡県教育委員会、福岡県産業教育振興会、北九州市、北九州市教育委員会ほか	297
16	平成24年11月25日	産業経済局観光・コンベンション課	韓国メディア関係者、本市関係者	7
17	平成24年11月30日	御船町都市計画審議会	御船町都市計画審議会委員ほか	12

合計 612

8. 報道一覧

(1) 平成 24 年度博物館関係報道状況記録 (新聞)

件数	月日	新聞社名	内 容
1	4月4日	毎日	陸前高田博物館で浸水した被災標本の修復展示
2	4月6日	西日本	春の特別展「アンモナイトのふしぎ」展示内容
3	4月16日	朝日	シーラカンスの口の構造
4	4月18日	西日本	大正のこども版画で再現 企画展開催
5	4月22日	西日本	若松区の地層芦屋層群が天然記念物に
6	4月23日	毎日	世界最大のマンボウ標本
7	4月24日	西日本	八幡東の人：「アンモナイトのふしぎ」担当学芸員紹介
8	4月26日	読売	春の特別展「アンモナイトのふしぎ」展示内容
9	5月11日	西日本	企画展「経筒展」
10	6月18日・19日	毎日	ティラノサウルスの骨格標本組み立て作業など
11	6月19日	朝日・西日本	来月14日から特別展 骨格標本組み立て
12	6月28日	毎日	「対決！恐竜展」展示内容
13	7月8日	毎日	小中学生17人が恐竜の骨格標本の組み立てに挑戦
14	7月13日・14日・26日	毎日	「対決！恐竜展」
15	7月23日	朝日・毎日	「対決！恐竜展」9日目で1万人達成
16	7月30日	毎日	ナトミュージアム 暗闇に浮かぶ恐竜にドキッ スリルと探検気分
17	8月6日	朝日	芦屋釜の工房で铸造実験
18	8月7日	西日本	「対決！恐竜展」でティラノサウルスとトリケラトプスの対決シーンを再現
19	8月8日	毎日	「対決！恐竜展」3万人達成
20	8月12日	読売	化石を探そう 時を超え感動発見 野外調査様子や採集時の注意点
21	8月21日	毎日	進化の謎を追って：ティラノサウルス 小さい前あしの秘密
22	8月22日	毎日	進化の謎を追って：これまでのトリケラトプスとの違い
23	8月23日	毎日	進化の謎を追って：クリオロフォサウルス「暖かな南極」で生存
24	8月31日	西日本	「新修福岡市史」に全文収録した古文書「維新雑誌」
25	9月6日	西日本	歴史ぽけっとと企画展「むかしに学ぶエコスタイル」の紹介
26	9月22日	毎日・読売	10万人突破 「対決！恐竜展」あすまで
27	10月5日	西日本	感動届け10周年 博物館リニューアルへ 20日から特別展
28	10月12日	朝日	投書：子どもたちへの体感の効果と年間パスポート検討
29	10月23日	西日本	「10年のあゆみ」展開会 蔵出し5200点ずらり
30	10月30日	毎日	「10年のあゆみ」展 虹をかけるチョウの羽
31	10月30日 11月4日	西日本	開館10周年 感謝込め入場無料 来月3、4日講演会やコンサート開催
32	10月30日	西日本	安川敬一郎氏の展示会や市制50周年への取り組み
33	10月31日	朝日	自然と人間 多彩に10年 入館者370万人「市民とともに」
34	11月1日	読売	自然・歴史の魅力を伝え10年 3日に開館記念開催
35	11月4日	毎日・読売	入場無料 博物館や200人が参加した記念式典の様子
36	1月23日・2月9日	毎日	「ティラノサウルスレックス」の複製骨格世界で初展示
37	1月24日	西日本・読売	博物館3月23日に新装オープン 「スー」などの骨格標本常設展示

38	2月5日	読売 (和歌山版)	モササウルス化石発見時の状況、経緯、化石研究の面白みなど
39	2月6日	西日本	出生確率が三分の一である雄の三毛猫についての感想
40	2月7日	朝日	北九州に上陸「スー」 組み立て完了 3月23日から常設展示
41	2月7日・8日	読売	巨大ティラノ現れた 「スー」組み上がる
42	3月10日	読売	東日本大震災で被災した昆虫標本の修復完了 全国20施設が協力
43	3月11日	中国	23日リニューアルオープン、全長12mティラノ骨格登場
44	3月19日	西日本	八幡東の人：恐竜担当学芸員紹介
45	3月23日	毎日・西日本	リニューアルオープン、大規模な展示替えて全館充実
46	3月23日・24日	朝日	博物館リニューアルオープン
47	3月24日	読売	博物館改装オープン、巨大な恐竜に驚きの声

*西日本新聞連載 「おもしろ発見」

件数	掲載月日	内 容
1	10月5日	ディプロミスタス いのちのたび博物館のはじまり
2	10月12日	「鶴屋」の原田氏が発見 日本最古の昆虫化石ハラダムカシシリアゲ
3	10月19日	野生のアナグマ 各地で目撃が増加
4	10月26日	80年前のオオサンショウウオ 北九州にもいた証拠
5	11月2日	ガシャモク 国内唯一の自生地に
6	11月9日	昆虫コレクション 寄贈が続き54万点に
7	11月16日	シーラカンス 世界最大の復元骨格
8	11月23日	日本の恐竜
9	11月30日	不思議な形のアンモナイト その生態は謎のまま
10	12月7日	霧島新燃岳の噴火
11	12月14日	国の天然記念物カンムリウミスズメ 韓国との共同調査進む
12	12月21日	ウバザメの剥製 若松で捕れた巨大標本
13	12月28日	ウシマンボウの剥製 世界最大のマンボウ
14	1月11日	岩国のシロヘビ 人と共生してきた蛇
15	1月18日	3億年前の大トンボ メガニューラの復元
16	1月25日	野外での化石調査 苦労多いが充実感も
17	2月1日	化石のクリーニング 根気と注意力が必要
18	2月8日	恐竜から鳥類への進化 近年、新発見が相次ぐ
19	2月15日	ヒヨケザル 不思議な滑空哺乳類
20	2月22日	ティラノサウルスに羽毛？子どものころだけかも
21	3月1日	カスミサンショウウオ ひっそり暮らす“隣人”
22	3月8日	自然攪乱と森林 林の穴から世代交代も
23	3月15日	二次的自然のアンダーユース 生物の多様性が減少
24	3月22日	フズリナ 平尾台の成り立ち伝え
25	3月29日	パームシベット

(2) 平成 24 年度博物館関係報道状況記録 (TV・ラジオ)

No	月日	報道社名	内 容
1	4月7日	FBS 福岡放送	市政テレビ「新なるほど北九州」にてリニューアルオープン
2	4月13日	FM 長崎	特別展「アンモナイトのふしぎ」の内容
3	4月20日	RKB 毎日放送	山本作兵衛炭鉱記録画の情報掲載
4	4月20日	鹿児島 西日本放送 MBC ラジオ	特別展「アンモナイトのふしぎ」の内容
5	4月下旬	RKB データ放送	山本作兵衛氏の炭鉱記録画と近代の石炭業、基本情報
6	6月8日	熊本朝日放送	当館の紹介
7	6月14日	J-COM 九州	室内講座「夏に向けて！恐竜教室」の様子
8	6月18日	RKB NHK FBS TVQ KBC	ティラノサウルスの骨格標本組み立て作業、みどころ
9	7月6日・23日 8月20日	RKB ラジオ	「対決！恐竜展」みどころ
10	7月14日他4日	RKB 毎日放送	「対決！恐竜展」みどころ・ナイトミュージアム・3万人目式典
11	7月20日 8月9日	J-COM	「対決！恐竜展」みどころ
12	7月29日	NHK	「対決！恐竜展」みどころ
13	8月12日	熊本 RKK ラジオ	「対決！恐竜展」みどころ
14	9月11日	J-COM	ぼけっと企画展「むかしに学ぶエコスタイル」
15	10月18日・20日	LOVE FM	いのちのたび博物館 10年のあゆみ
16	11月24日他3日	RKB 毎日放送	恐竜の進化と絶滅
17	2月19日	KBC 九州朝日放送	直方隕石
18	2月25日	テレビ西日本	直方隕石

9. リニューアル

(1) 博物館の常設展改装と設備改修（共通）

1) 経緯

北九州市立自然史・歴史博物館は平成 20（2008）年度に 4 年後の開館 10 周年に向けて、「今後の博物館のあり方」を策定することを決め、翌平成 21（2009）年度にはワーキング・グループを設置し、学芸員からのヒアリングを行うなど検討を重ねて、平成 21 年 12 月 16 日付で「いのちのたび博物館「進化構想」中間報告」を、続いて平成 22（2010）年 3 月に「いのちのたび博物館「進化構想」」をとりまとめた。その目的として「北九州市が目指す「人づくり」や「環境創生」への取り組みと協働し、市を代表する社会教育施設として、より多くの市民に愛され、社会に貢献するため、進化し続ける博物館を目指す」ことを掲げて、開館 10 周年記念事業として常設展の改装と施設・設備の改修を行う方針を明示した。翌平成 22（2010）年度には「博物館展示施設設備調査事業」として、前年度策定の「進化構想」に基づいて、平成 23（2011）年 2 月に「いのちのたび博物館「進化計画」（展示・施設・設備調査）報告書」をとりまとめた。平成 23（2011）年度も引き続き「博物館展示・施設等改修事業」を実施し、平成 24（2012）年 3 月に「いのちのたび博物館展示改修製作業務委託 展示改修設計図」を策定した。実施年度である平成 24（2012）年度予算編成において、常設展の改装について都市再生整備計画補助金（旧まちづくり交付金）の助成を申請して、認められた。後述する設備の改修を合わせて、平成 24 年 12 月 3 日から平成 25 年 3 月 22 日まで休館して工事を実施した。以上の構想・計画・報告書の作成と常設展改装工事の実施については、すべて受注した株式会社丹青社に業務を委託した。

常設展の改装はおおよそ下記の通り実施した。

【自然史ゾーン】

アースモールの新規標本の展示と大型映像演出の追加
生命の多様性館横スロープ通路の映像演出の追加
エンバイラマ館のリニューアル

【歴史ゾーン】

カルチャーモールのリニューアル
テーマ館「明治時代以降の北九州」の拡充
「東アジア交流コーナー」の新設

【共通ゾーン】

「こどもミュージアム」の新設

さらに追加事業として、自然史ゾーンではぽけっとミュージアムをほぼ全面的にリニューアル、歴史ゾーンでは「明治時代以降の北九州」以外のテーマ館や文化学習園について展示品や展示解説を変更・刷新した。

2) こどもミュージアムの新設

こどもミュージアムは年少者がより楽しく遊びながら学ぶことのできる場として新設したものである。当初自然史ゾーンと歴史ゾーンにそれぞれ新設することを前提として検討を進め、次に一本化して、歴史ゾーンの文化学習園を改装し、こどもミュージアムとして活用することを計画した。最終的には、共通ゾーンの情報館を改装して小学生を対象としたこどもミュージアムを設置し、合わせて旧「こども館」を乳幼児に特化したこどもミュージアムと位置づけた。

こどもミュージアムは低い書棚で囲み、展示に関わる図鑑や子ども用の図書を配列して、自由に閲覧できるようにした。また常設展に関連して、ミナメダカやサワガニの飼育展示や石臼体験などのコーナーを設置した。さらに場内に畳を敷き、お手玉など昔の遊びの体験もできるようにした。

こどもミュージアムは利用者も多く、こどもたちの楽しそうな声でにぎわっていて、新設の効果は挙がっているが、年少者の体験学習の場として有効活用していくためには、さらなる検討と充実が課題である。

3) オープンギャラリーの拡張

特別展などを行うギャラリー館と講演会などを行うガイド館の間はオープンギャラリーとして、特別展などの展示場や団体見学者の待機・休憩の場として利用してきた。今回オープンギャラリーの増築工事（64.12 m²）を行い、多目的な利用空間として拡張した。それにより、これまで以上に大規模な特別展の開催が可能となるとともに、増加する団体見学者の待機・休憩への対応も可能となり、博物館利用者に対する利便性や展示企画の質の向上に資することができた。

4) LED照明の導入

LED照明は寿命が長い、消費電力が低い、発熱性が低いなどの特徴を有していて省エネルギー化に適し、また管球交換の頻度が減少して維持管理費が削減できる。また他の多くの光源と異なり、不要な紫外線や赤外線を含まない光を得やすいため、文化財や美術品などを展示する博物館においては、より相応しい照明が可能である。当館では今回の改修に際して、まず展示室の展示照明をLED照明に変更した。将来的には全館に導入する計画である。

(吉原英雄・川崎聡子・日比野利信)



こどもミュージアム

(2) 博物館の常設展改装 (自然史)

自然史部門では、ぼけっとミュージアムなどを加えると20項目のリニューアルを行った。ぼけっとミュージアムは展示標本の入れ替え(ぼけっとミュージアム7)やパネル変更(ぼけっとミュージアム1)以外にテーマを変更したものもあり、それらについては別途報告する。

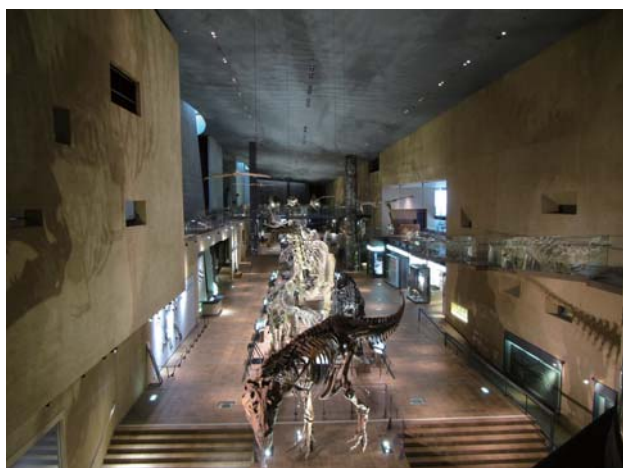
1) アースモール

入口の階段に新たにステージを設け「スーとして知られるティラノサウルス・レックス」の全身骨格レプリカを設置した。この実物大模型はスーとして知られるほぼ完全なティラノサウルス・レックスのレプリカで、原標本は米国イリノイ州シカゴのフィールド博物館に展示されている。フィールド博物館以外の博物館での常設展示は世界初となり、今回のリニューアルの目玉の一つである。

中生代ゾーンに、三畳紀後期に生息していた初期の恐竜エオラプトル、南極から産出した肉食恐竜クリオロフォサウルス、白亜紀後期の南米の巨大肉食恐竜ギガノトサウルス(これまで展示していたサウロロフスと入れ替え)、翼開長10メートルを超える史上最大の翼竜ケツアルコアトルス、海生爬虫類ティロサウルス、全長3.8メートルの史上最大のシーラカンス復元骨格となるマウソニアの6体を新規展示した。全長35メートルの史上最大級の植物食恐竜セイスモサウルスを展示しているため、リニューアルで恐竜時代の陸・水・空の史上最大級の動物化石を一堂に展示することとなった。クリオロフォサウルスとギガノトサウルスは、国立科学博物館のご協力により展示されている。また、新生代ゾーンにクジラの進化を説明するために、クジラの祖先の一つと考えられているドルドンの全身骨格を展示した。

また、壁面に羽毛恐竜と鳥類の板状化石標本を追加し、恐竜から鳥類への進化を紹介している他、エンバイラマ館出入口の壁面に白亜紀のブラジル産魚類実物化石24点を展示した。

3階廊下に360インチの大型映像を投影できるプロジェクターを設置し、壁面に5分程度の恐竜などのCG映像を上映するようにした。



リニューアル後のアースモール全景 ©KMNH



アースモールの新規展示標本
吊り下げ：ケツアルコアトルス
手前：ギガノトサウルス (国立科学博物館協力)

2) エンバイラマ館

約 1 億 3000 万年前の北部九州を再現したジオラマに、白亜紀前期の中国から産出している肉食恐竜ディロング（動刻）と、四翼の羽毛恐竜として有名なマイクロラプトル・グイ（動刻 1 体と静刻 2 体）の 2 種 4 体の羽毛恐竜を新規設置し、これまでのヴェロキラプトル 2 体に最新学説に基づいて羽毛を追加した。これ以外に火山噴火や嵐の音・光などの演出効果を強化した他、スクリーン映像（噴煙やマメンチサウルス、翼竜の群れ）を大きくし、動きをわかりやすく変更した。翼竜のシルエットがホールを通過するなどの演出も新たに加えた。さらに爆風や嵐による風を体感していただけるよう 2 機のファンを設置し、演出に合わせて風を起こした。



エンバイラマ館に新規展示された羽毛恐竜のディロング

3) 生命の多様性館

哺乳類の剥製標本 10 体を新規追加及び入れ替え、昆虫標本 200 体を展示替えし、床展示エリアのガラスを交換した。

また生命の多様性館脇のスロープには、深海生物の形がムービングライトで色鮮やかに動く演出を追加した他、JAMSTEC（独立行政法人海洋研究開発機構）協力の深海映像を、大型モニターを設置し上映している。

4) その他のリニューアル項目

アースモールと生命の多様性館に設置されている情報検索端末を変更した。市販のタブレット PC を設置し、コンテンツは新たに敷設した館内 Wi-Fi を利用してインターネット上に置いている。これにより展示標本の情報更新が容易となり利便性が向上した。さらに館内 Wi-Fi 敷設により、来館者は、自身が所有するスマートフォンなどの Wi-Fi デバイスで同じコンテンツを見ることができる。タブレット PC を設置した情報検索ステージは、車イスでも利用しやすいようデザインし、天板部分はスペースを設け、来館者がメモを取るなど学習に利用しやすいよう配慮した。

地質年代区分の改訂で表記に変更が生じた時代区分の解説パネル、標本ラベルを全て変更した他、地質年代区分ラベルを新たに設置し、来館者に展示標本の時代がよりわかりやすくなるようにした。

アースモール床面のアップライト及び各展示エリアの吊り下げライト、標本照明用ライト等を LED 化し、省エネルギー化とともに標本劣化が抑えられるようにした。

(大橋智之)

(3) 博物館の常設展改装（歴史）

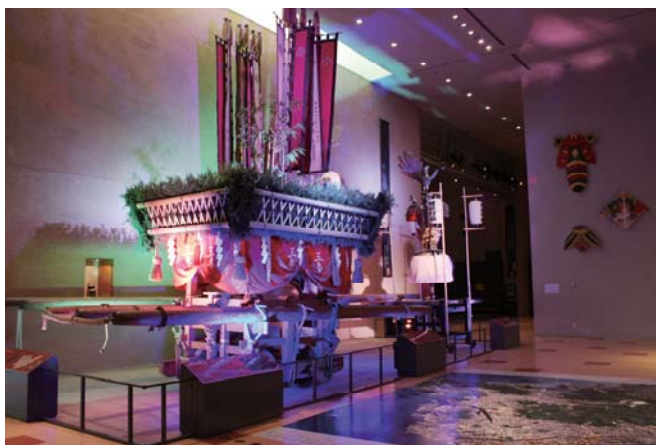
歴史ゾーンはカルチャーモール、探究館（弥生時代復元住居・昭和30年代の社宅）、テーマ館、文化学習園から成る。今回は探究館を除く3コーナーの改装を行うとともに、「東アジア交流コーナー」を新たに開設した。

1) カルチャーモール

自然史ゾーンから歴史ゾーンに入ったカルチャーモールでは、「北九州市の三大夏祭り」とされる「小倉祇園太鼓」「黒崎祇園行事」「戸畑祇園大山笠」の山車や山笠を一堂に展示して、デジタル・フォトフレームで写真を投影して行事の詳細を解説し、音声と照明を活用して祭りの賑わいを体感できるようにした。

また江戸時代の小倉の名産品として知られ、現在も復元や創作の試みが行われている「小倉織」コーナーを開設し、適宜ボランティアによる実演も行い、実際に製法を見学・体験できるようにした。

さらに床面を利用して北九州市の航空写真を展示し、主要な史跡や江戸時代の街道などを明示して、市の全体像が一望できるようにした。



カルチャーモール全景

2) テーマ館

北九州地域の歴史を旧石器時代から現在までさまざまな歴史資料や模型・ジオラマなどによって紹介するテーマ館は時代表示を、例えば「近世の北九州」を「江戸時代の北九州」というように、学校の教科書に準じた表記に変更した。

また時代と時代をつなぐ導入展示の位置づけを、「縄文人と弥生人」「律令国家の時代」「天下統一の時代」「幕末動乱の時代」というように明確化した。

展示品や解説も適宜変更して充実を図るとともに、特に注目してほしい資料については「ここに注目」のサインを表示し、小中学生を主たる対象としてわかりやすい解説を追加した。

今回の改装では特に「明治時代以降の北九州」について「石炭と鉄がつくった工業都市」として展示室を拡張し、展示内容の充実を図った。

そのうち「近代の北九州」については「石炭と鉄のみちとまち」「行き交う人と文化」「発展する都市のまちなみ」の3つのコーナーに区分し、山本作兵衛最大の炭鉱記録画作品や吉田初三郎の鳥瞰図などを展示して、北九州が日本の四大工業地帯の一つとして発展したことを示した。



テーマ館 明治以降の北九州

また、「現代の北九州」はテーマ展示を行うコーナーとして、近代化遺産や戦争などさまざまなテーマをとりあげて紹介することにした。

3) 文化学習園

明治時代から昭和戦後までの北九州に多く見られた茅葺き屋根の農家を再現した文化学習園では、農具の展示コーナーを一新し、稲作を中心に、四季ごとに農具を配列し、春夏秋冬に行う農作業を写真やイラストを交えて「農家の一年」として紹介するようにした。かまどなどを利用する台所の様子も再現した。

また農家の周囲のガラス壁面を利用して、北九州の版画家・片山正信の『大正走馬燈』からむかしの遊びやくらしに関する作品を紹介した。



文化学習園 農家の一年

4) 東アジア交流コーナー

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を結び（2010年）、交流事業を行っている。

今回の改装では2階に「東アジア交流コーナー」を新設した。本コーナーでは両市の歴史と文化、両博物館の活動について、写真などの関係資料や所蔵品の複製などにより紹介している。



東アジア交流コーナー

5) 小 括

今回の常設展改装後、来館者の歴史ゾーンにおける見学時間が長くなったように見受けられる。来館者の反応を調査・分析しながら、展示品の入れ替えや最新の情報の紹介などにより、常設展においても変化や改善を追求していきたい。それは資料保存の観点からも望まれる課題である。

(日比野利信)

10. 特別展

(1) 夏の特別展「対決！恐竜展」

期 間：平成 24 年 7 月 14 日（土）～平成 24 年 9 月 23 日（日） 72 日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー、ガイド館

入 場 料：大人 700 円、高・大生 400 円、小・中生 300 円、
未就学児無料

観覧者数：102,921 人（目標：80,000 人）

担当学芸員：大橋智之

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、
RKB 毎日放送

後 援：福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、NHK 北九州放
送局、日本古生物学会

特別協力：国立科学博物館、ゴビサポートジャパン、福井県立恐竜博
物館、清水三年坂美術館、林原-モンゴル共同調査隊、独
立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

特別協賛：全労済福岡県本部

協 賛：公益財団法人福岡文化財団

協 力：ビッグベアーズフーズサービス

概 要

肉食恐竜と植物食恐竜の「対決」をテーマに恐竜の進化を紹介。ティラノサウルスとトリケラトプスは最新学説に基づいた西日本初公開の姿勢で展示した。さらに恐竜から鳥類への進化を世界初公開の鳥類化石を含めて紹介した他、最新研究を映像やパネル等で紹介。夏の特別展では初めて来場者 10 万人を達成した。

主な展示標本

クリオロフォサウルス（九州初公開）、ティラノサウルスとトリケラトプス（西日本初公開）、ギガノトサウルス、タルボサウルス、ブラジル産鳥類実物化石（世界初公開）、学名の付いた日本産恐竜全 5 種など約 70 点。東日本大震災で被災した東北地方の博物館の復興をパネル展示。最新研究の映像や迫力ある恐竜 CG 映像を公開した。

イベント

7 月 28 日（土）18 時～20 時にナイトミュージアムを、8 月 18 日（土）18 時～20 時に福岡ハイドン弦楽四重奏団による恐竜ファミリーコンサートを開催。会期中の金曜日もしくは日曜日の 14 時から 30 分間のギャラリートークを会場内で 9 回実施。



(大橋智之)

（２）秋の特別展「いのちのたび博物館 10年のあゆみ とっておきのコレクションが勢ぞろい」

期 間：平成 24 年 10 月 20 日（土）～平成 24 年 12 月 2 日（日） 44 日間

会 場：ギャラリー館

入 場 料：大人 300 円、高・大生 200 円、小・中生 100 円、
未就学児無料

観覧者数：30,283 人

担当学芸員：武石全慈、日比野利信

概 要

当館が開館以来 10 年間に収集・修復し、または研究が進んだ標本や資料を精選して、その価値や魅力をわかりやすく解説し、北九州市の自然や歴史と博物館のあゆみを示した展覧会。

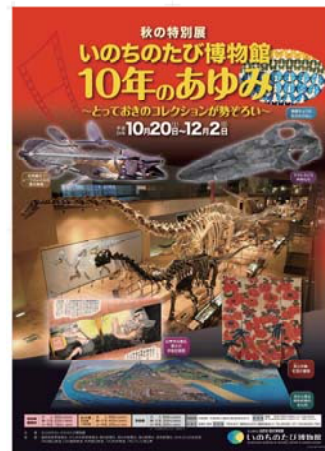
「ぎゅぎゅっと自然史」では市内産出のヤマトクジラ化石や恐竜化石、世界最大のシーラカンス化石復元骨格、八幡にいた 80 年前のオオサンショウウオ標本、熱帯のチョウ類標本など学術的に貴重、あるいは大きい・美しい自然史標本を紹介した。

「さかのぼり北九州の歴史」では、田川市の作品が世界記憶遺産に登録された山本作兵衛の炭鉱画、小倉の名産小倉織の羽織、小倉藩主小笠原忠真が大坂夏の陣で着た鎧と兜、北九州の高校生の発掘品など貴重な歴史資料や優れた文化財を紹介し、昭和から弥生時代までさかのぼりつつ北九州市の歴史を示した。

関連事業

開館 10 周年記念日である 11 月 3 日（土）と翌 4 日（日）にかけて、記念式典、記念コンサート、学芸員ギャラリートーク、記念講演会を行った。

なお記念講演会は 11 月 3 日に当館名誉館員の岡崎美彦氏が「北九州で発見されたヒゲクジラの祖先—ヤマトクジラとその意義—」と題して、11 月 4 日に福岡市博物館館長で九州大学名誉教授の有馬学氏が「北九州・石炭と鉄のまちの記憶」と題して、それぞれ行われた。



入口付近「チョウのかけはし」



ヤマトクジラの復元骨格標本



山本作兵衛の炭鉱記録画

(武石全慈・日比野利信)

1 1. ぽけっとミュージアム企画展

(1) 山本作兵衛氏の炭鉱記録画と石炭業Ⅱ・Ⅲ

期 間 平成24年4月14日(土)～6月24日(日)
7月2日(月)～8月27日(月)

会 場 ぽけっとミュージアム No.9

概 要

田川市の所蔵作品がユネスコの「世界記憶遺産」に登録された山本作兵衛氏の炭鉱記録画。本展は博物館が所蔵する山本氏の作品と関連資料を展示して、炭鉱が次々と閉山していった際に山本氏が伝えようとした炭鉱の記憶に迫る展覧会。博物館所蔵作品や、山本氏が「しまつの悪い圧制」として批判した炭鉱札、八幡西区香月の大辻炭鉱の関連資料などを展示した。



(日比野利信)

(2) 片山正信版画 大正走馬燈の世界Ⅰ・Ⅱ

期 間 平成24年4月14日(土)～6月24日(日)、
9月1日(土)～10月21日(日)

会 場 (Ⅰ) ぽけっとミュージアム No.11

(Ⅱ) ぽけっとミュージアム No.9

概 要

大正時代が始まって100年が経過したことを機に、大正4年(1915)生まれの版画家・片山正信氏が子供のころの生活風景をえがいた作品集『大正走馬燈』を中心として、大正時代の人びとのくらしと心情について、Ⅰでは「大正の子どもたち」と銘打ち特に子供の視点から、Ⅱでは「大正の物売る人びと」と題し、物売る人びとに注目して明らかにしようとしたものである。



(日比野利信)

(3) 経筒に託した祈り～平清盛の時代

期 間 平成24年4月14日(土)～6月17日(日)

会 場 ぽけっとミュージアム No.10

概 要

いのちのたび博物館が所蔵する北九州市内および福岡県内から出土した経筒と福岡県立求菩提資料館保管の求菩提山出土の重要文化財の経筒等を展示し、平安時代末(12世紀)の社会情勢が不安な時代に人々が経筒に託した祈りの世界を再現した。特に、平成6(1994)年度に北九州市教育委員会が発掘調査を実施した若松区有毛太郎坊山遺跡の経塚が、平成24(2012)年度に発掘調査報告書が刊行されたので、今回メイン資料として展示した。



(松井和幸)

(4) 文化庁 平成 24 年度考古資料相互活用促進事業 北九州ゆかりの考古資料展

期 間 平成 24 年 8 月 23 日 (木) ~ 10 月 21 日 (日)

会 場 ぽけっとミュージアム No.10

概 要

東京国立博物館との平成 24 年度考古資料相互活用促進事業により北九州市内から明治時代に出土し、現在東京国立博物館に所蔵されている経筒（ハリヤ経塚、ベラ山経塚、金山経塚）と現宮若市磯光出土須恵器を展示した。市内ゆかりの東京国立博物館所蔵の経筒に関しては、先に開催していた「経筒にした祈り～平清盛の時代」で展示していたレプリカを実物に交換して展示した。



(松井和幸)

(*) 文化庁 平成 24 年度考古資料相互活用促進事業 北九州の青銅器文化

期 間 平成 24 年 10 月 30 日(火)~平成 25 年 3 月 10 日(日)

会 場 東京国立博物館平成館 1 階

概 要

北九州市小倉北区小倉城下屋敷遺跡出土の長宜子孫内行花文鏡、小倉南区重留遺跡出土の銅矛や小倉南区長野小西田遺跡出土銅鋤先など北九州市内から出土している弥生時代から古墳時代初頭にかけての代表的な青銅器や玉類 25 点余りを東京国立博物館平成館に展示し、弥生時代の北九州の優れた青銅器文化を紹介した。



本事業は、国立博物館並びに公立博物館及び埋蔵文化財センター等が所蔵する考古資料について、相互貸借を促進し、体系的な展示・公開を行うことにより、それぞれの博物館等における研究・展示等の活動の充実をはかる目的で実施されている文化庁の事業である。

(松井和幸)

(5) むかしに学ぶエコスタイル

期 間 平成 24 年 7 月 2 日 (月) ~ 10 月 21 日 (日)

会 場 ぽけっとミュージアム No.11

概 要

本展は、電気・水道・ガス等のない江戸から昭和のくらしにスポットを当て、当時の知恵や工夫を見直し、現在に活かす手掛かりを探ろうとした企画。4 つテーマに分けて展示した。1) 版画に見るくらしでは変わりゆく郷土の風景を版画にした片山正信氏 (1915~2011) の版画『大正走馬燈』より 100 年前の生活を紹介。 2) 布のリサイクル では木綿布資料よりワタから布になる工程、再利用可能な着物の特性、修繕・転用を通して、布のリサイクルを考えた。また、3) 紙のリサイクル では紙の漉き直し (宿紙)、襖や屏風の下張など、古文書を中心に展示。4) 電化以前のくらしと道具 では様々な電化製品が登場する以前の道具やくらしの様子を展示。



(日比野利信、上野晶子、富岡優子、守友隆)

(6) 滄々巨変 大連都市発展写真展

期 間 平成 24 年 10 月 26 日 (金) ~ 12 月 2 日 (日)

会 場 ぽけっとミュージアム No.9、10、11

概 要

北九州市の友好都市の中国・大連市の旅順博物館が所蔵する写真により、大連市の歴史と現在の姿を紹介する展覧会。当館と旅順博物館また姉妹都市の韓国・仁川広域市立博物館は 2010 年に「東アジア友好博物館に関する合意書」を結んで交流を進めており、本展は第 1 回の 3 館巡回企画展で、旅順博物館が企画した。大連港、市街地、商業地区、住宅、公園・広場などに分けて新旧の写真により都市の変遷を示した。



(日比野利信)

(7) 国指定重要無形民俗文化財 戸畑祇園大山笠

期 間 平成 25 年 3 月 23 日 (土) ~ 7 月 29 日 (月)

会 場 ぽけっとミュージアム No.9、10、11

概 要

戸畑祇園大山笠は昼の「幟山笠」が夜の「提灯山笠」に変わる国の重要無形民俗文化財である。今回の展示では、県指定有形民俗文化財に指定されている東大山笠と西大山笠の幟山笠の切幕と水引幕を展示した。幕に描かれた題材は、「俵藤太 むかで退治の図」「藤原房前大臣の生母である海士が龍宮から玉を取り戻すの図」「文禄・慶長の役出陣の図」「神功皇后 三韓出兵の図」「賤ヶ岳の七本槍の図」「素戔鳴尊の八岐大蛇退治の図」で、いずれも見事な刺繍で表現されている。これらの題材は、それぞれ物語や唱歌などで語り継がれてきた登場人物であり、人びとにとってあこがれの存在であったことがうかがえる。



(上野晶子)

(8) 大連市との交流

期 間：平成 25 年 3 月 23 日（日）～現在

会 場：ぽけっとミュージアム No.3

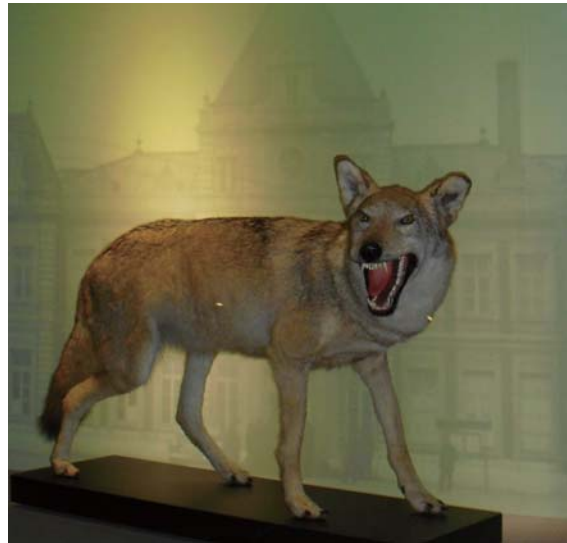
概 要

北九州市は、中華人民共和国の大連市と友好都市としてさまざまな分野で交流している。博物館も、旧自然史博物館のころから大連自然博物館と展示会開催や標本交換などの交流を行っており、最近では、歴史の分野でも旅順博物館と交流を深めている。

このコーナーでは大連自然博物館から交換で入手した主な標本を展示した。なかでも、古くから労働力の助けとして利用されてきたロバとウマ、両種の種間雑種であるラバを展示し、家畜の利用について紹介している。

その他、オオカミ、クロテン、コウライウグイス、千年以上前のハスのタネ、遼寧省産中生代魚類化石のリコプテラなど貴重な標本を紹介している。

(馬場 稔)



(9) アンモナイト

期 間：平成 25 年 3 月 23 日（土）～現在

会 場：自然史ぽけっとミュージアム No.4

概 要

アンモナイトは、約 4 億年前（古生代デボン紀）から約 6600 万年前（中生代白亜紀）にかけて大繁栄した生きもので、その化石は日本も含め世界中から豊富に見つかっている。

このぽけっとミュージアムでは、308 点の標本（アンモナイトの実物化石 304 点、アンモナイトのレプリカ 3 点、現生オウムガイ 1 点）を用いて、アンモナイトの形の多様性と、進化や生態について解説している。

展示の構成は次のとおりである。(1) ファサード：導入として大型アンモナイト

6 点を展示、(2) ファサード裏：国内最大級の直径約 1 m のアンモナイトを展示、(3) 正面ウォールケース：世界と日本の様々なアンモナイトを展示、(4) 左展示ケース：アンモナイトの殻のしくみやアゴについての解説、(5) 右展示ケース：アンモナイトの進化や生態についての紹介。

(御前明洋)



(10) 世界の貝

期 間 平成 25 年 3 月 23 日 (土) ~ 現在

会 場 ぽけっとミュージアム No.5

概 要

貝は世界から 3 万種以上が知られている。博物館が世界から集めた貝を約 100 点展示し、貝の多様な世界、特に模様、形、大きさを実感していただく。展示の構成は次のとおりである。(1) ファサード: 熱水に生きる貝、シロウリガイ、アルビンガイなどの展示。熱水噴出孔のジオラマ、(2) 正面ウォールケース: 大型の貝類、ゴホウラ、アラフラオオニシ、ピンクガイ、エントツガイ、トウカムリ、テングガイ、トサカガキ、ダイオウソデなど、(3) 左展示ケース: 最も美しい貝、テラマチダカラ、ナンヨウダカラ、オトヒメダカラ、クロユルダカラなど、(4) 右展示ケース: 珍しい形の貝と身近な貝、チマキボラ、ミミズガイ、ホネガイ、アサリ、サザエ、カキなど、(5) 中央行灯ケース: 深海のサンゴと貝類、宝石サンゴ類、ギンエビス、リンボウガイなど。



(下村通誉)

(11) カエルとサンショウウオ

期 間: 平成 25 年 3 月 23 日 (土) ~ 現在

会 場: ぽけっとミュージアム No.6

概 要

市内に生息している両生類 15 種のうち、カエル 6 種とサンショウウオ 3 種を生きたまま展示している。また、八幡東区を流れる板櫃川上流にて、今から約 80 年前に捕獲されたオオサンショウウオの液浸標本も展示している。九州でのオオサンショウウオの生息地は、現在、大分県内の一部の水系にのみに限られており、この標本は少なくとも戦前には市内の市街地の近くにも生息していたことを示す貴重なものである。また、このコーナーでは、生き物や標本だけではなく、世界 30 カ国のカエルグッズも展示している。これらのグッズは、長崎県在住の松尾公則氏と神奈川県在住の佐々木康子氏が長年にわたり収集してきたもので、各地の民族によるカエルのとらえ方の違いがグッズに反映されていて大変面白い。コーナー奥の壁では、自然史友の会の方々が撮影した約 300 枚のカエルやサンショウウオの写真を壁紙にしている。



(山根明弘)

1 2. その他の事業

(1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を結び（平成22年11月5日）、交流事業を行っている。平成24年度は第3回の東アジア友好博物館実務者会議が6月6日に旅順博物館で開催されたが、9月に旅順博物館で予定されていた第3回東アジア友好博物館館長会議は諸事情により中止となった。

平成24年度には第1回の巡回企画展として旅順博物館の企画による「滄々巨変 大連都市発展写真展」が開催された。また12月6日から20日まで、仁川広域市立博物館展示教育課の学芸研究士である金來礼氏を招聘して、日韓の博物館における教育普及プログラムの実践例について比較検討を行うことを目的に学芸員派遣交流事業を実施した。本事業の実施にあたっては、文化庁の「平成24年度博物館・美術館相互交流事業」による助成を受けた。最終日に行った報告会には、文化庁美術学芸課の田中健太郎国際文化財交流協力官にご出席いただいた。

また平成25年3月23日にリニューアル・オープンした常設展には仁川広域市と大連市の歴史や文化、仁川広域市立博物館と旅順博物館の活動や所蔵品などを紹介する「東アジア交流コーナー」を開設した。
(日比野利信)



12月20日の報告会

(2) 「北九州のむかしの写真大募集！」事業

平成24年3月28日から6月30日までの3ヶ月をかけて、明治時代から昭和時代までに北九州市内で撮影され、地域の歴史や人びとの暮らし、自然や風景の移り変わりを示す写真を募集した。期間中には52名から6,354枚の提供を受けた。これらの写真については、平成25年4月に開催の北九州市制50周年記念展「北九州市の宝もの」や、常設展（テーマ館）で紹介する。

写真を撮る／撮られるという経験は多くの人びとにとっては、冠婚葬祭など「ハレの日」の特別な出来事だった。出征や訓練、援護活動など、戦争は写真を撮る機会にもなった。昭和30年前後からカメラが普及して、写真を撮る／撮られるという経験が広がっていく。カメラを買い、行事や風景を撮影する愛好家も増えていった。このようにして撮影され、現在に伝わった数々の写真は、北九州市の貴重な歴史資料といえることができる。

募集した写真をながめてみると、例えば、若戸大橋（昭和37年建設）と関門橋（昭和48年建設）の写真が目立つ。「東洋一の吊橋」といわれた2つの橋を北九州市民が誇りに思っていることが知られよう。博物館では募集した写真をさらに活用していくとともに、今後も引き続き写真資料の収集と保存・活用に取り組んでいきたい。

(日比野利信)



勝山公園のジェットコースター
昭和35年5月 藤田宏富氏提供

1 3. 教育普及活動

(1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第2の学校（教室）として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、

- (1) 博物館への誘致事業
- (2) 学校教育支援事業
- (3) 家庭教育支援事業

の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

1) 博物館への誘致事業

- 博物館への誘致活動
修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイダンスビデオ、パンフレット類の送付及び旅行会社へのPR活動
- 情報発信による博物館利用の案内
・情報誌「いのちのたび」を月1回、保育所（園）・幼稚園向けの情報誌を年2回発行
・博物館ホームページ、市政だより等の活用

2) 学校教育支援事業

- 博物館活用資料の整備
各種ガイドブック、ワークシート、スタンプラリーシート、体験活動プログラム資料等
- 体験学習プログラムの提供
化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくり、化石発掘体験、勾玉づくり
- 授業づくり支援
「博物館利用の手引き」の活用、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」「土地のつくりと変化」等館内での授業、ディスカバリーボックスの学校への貸し出し等
- 職場体験学習、教員研修の受け入れ等
- 環境体験科（北九州市教育委員会主催の市内小学校4年生を対象とした体験活動）
- その他
第62回九州地区理科教育研究福岡大会（北九州大会）会場
（平成24年11月16日 参加者約200名）
*学校における理科教育の推進のため、九州地域一円から集まった教育関係者による研究大会を当館で開催。MTが窓口となり講演会・公開授業・授業研究会が実施された。

3) 家庭教育支援事業

- いのちのたび子ども教室（20名を定員として前期8回、後期8回で学芸員による講話や体験学習を実施する。）
- 東田サマースクール（夏休み期間中に、環境ミュージアム、KIGSと合同で全3期の体験学習を実施する。）

【平成24年度 学校関係利用状況】

○ 学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	高等学校	特別支援	合計
団体数	140	799	123	15	39	1,116
人数	8,556	57,098	10,783	791	1,062	78,290

○ 体験プログラム受講者数

団体数	受講者数
134	6,516

○ 環境体験科受講者数

学校数	受講者数
38	2,196

○ いのちのたび子ども教室

○ 東田サマースクール

講座数	参加者数
16	のべ 320

回数	参加者数
3	75

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を29回企画、参加者キャンセルによる中止が1回あったため、28回の実施となった(野外観察会:5回、室内講座:11回、たいけん講座:8回(うち1回中止)、夏休み教室:4回、バスハイク:1回)。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	平成24年5月13日	日	48
野外観察会	ジオ・ハイキング(平尾台)	平成24年5月20日	日	16
野外観察会	ジオ・ハイキング(皿倉山)	平成24年9月9日	日	18
野外観察会	ズグロカモメを見る!	平成25年1月27日	日	23
野外観察会	カワセミを見る!	平成25年2月17日	日	74
室内講座	夏に向けて!恐竜教室・その1	平成24年4月21日	土	44
室内講座	夏に向けて!恐竜教室・その1(再)	平成24年4月28日	土	35
室内講座	化石と地球の研究、最前線	平成24年5月6日	日	21
室内講座	夏に向けて!恐竜教室・その2	平成24年5月12日	土	15
室内講座	夏に向けて!恐竜教室・その2(再)	平成24年5月19日	土	24
室内講座	夏に向けて!恐竜教室・その3	平成24年6月9日	土	33
室内講座	夏に向けて!恐竜教室・その3(再)	平成24年6月10日	日	27
室内講座	昆虫標本のつくりかた	平成24年6月24日	日	65
室内講座	恐竜学講座・その1	平成24年10月27日	土	9
室内講座	恐竜学講座・その2	平成24年11月17日	土	3
室内講座	恐竜学講座・その3	平成24年12月15日	土	5
たいけん講座	親子de野菜からDNAをとりだしてみよう!	平成24年6月2日	土	0(中止)
たいけん講座	貝やアンモナイトなどの生き物の殻の形の不思議を探る	平成24年6月17日	日	22
たいけん講座	顕微鏡で見よう!美しい鉱物の世界	平成24年6月24日	日	60
たいけん講座	親子de野菜からDNAをとりだしてみよう!	平成24年10月14日	日	18
たいけん講座	「けもの」の毛と骨の観察	平成24年11月18日	日	17
たいけん講座	自然史工作教室「ムササビとタネのグライダー」	平成24年12月9日	日	10
たいけん講座	石のまようを観察しよう	平成24年12月9日	日	12
たいけん講座	鳥はなぜ飛べる?鳥だこを作って考えよう!	平成24年12月16日	日	73
夏休み教室	ジオハイキング 化石と地質のたのしみ方	平成24年7月15日	日	26
夏休み教室	皿倉山の昆虫と植物の観察会	平成24年7月28日	土	47
夏休み教室	海岸生物の観察	平成24年7月31日	火	62
夏休み教室	植物の名前調べ	平成24年8月19日	日	21
バスハイク	ジオツアー(市内の地質と化石めぐり)	平成24年11月23日	金・祝	38

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
連続講座	近世読み方入門講座	平成24年4~9月	第1・3水	15
連続講座	近世読み方応用講座	平成24年4~9月	第2・4水	26
体験講座	若武者に変身!	平成24年5月5日	土・祝	50
体験講座	小倉織入門教室	平成24年11月10日	土	16

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みと人々の歴史を考えるイベントを行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
いのたび自然塾	藍の生葉で染めるシルクのハンカチ	平成24年8月3日	金	20
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう!	平成24年8月4日	土	32

4) 特別展の普及講座

特別展に関連した講座として下記を開催した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
特別展関連イベント	アンモナイト研究とモササウルスの発見!	平成24年4月1日	日	81
特別展関連イベント	アンモナイトのレプリカづくり	平成24年4月3日	火	30
特別展関連イベント	ナイトミュージアム	平成24年7月28日	土	425
特別展関連イベント	恐竜ファミリーコンサート	平成24年8月15日	土	220
記念コンサート	永野榮子ピアノリサイタル	平成24年11月3日	土・祝	80
特別展関連イベント (10周年記念講演会)	北九州で発見されたヒゲクジラの祖先-ヤマトクジラとその意義-	平成24年11月3日	土・祝	100
記念コンサート	響ホール室内合奏団メンバーによるアンサンブル	平成24年11月4日	日	100
特別展関連イベント (10周年記念講演会)	北九州・石炭と鉄のまちの記憶	平成24年11月4日	日	80

(3) 博物館実習

1) 自然史課博物館実習

学芸員課程の学生 16 名を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。2 期に分け各期間内で 5 日間と 10 日間を学生が選択。

*1 期 (8 月 21 日 (火) ~9 月 1 日 (土) : 日曜・月曜休講の 10 日間)

- ・ 人数 : 8 名 (うち 2 名は 5 日間)
- ・ 所属大学 : 東海大学 1 名、九州産業大学 3 名、京都教育大学 1 名、筑紫女学園大学 1 名、福岡大学 2 名

*2 期 (9 月 4 日 (火) ~9 月 15 日 (土) : 日曜・月曜休講の 10 日間)

- ・ 人数 : 8 名 (全員 10 日間)
- ・ 所属大学 : 福岡教育大学 2 名、東京農業大学 1 名、琉球大学 1 名、福岡大学 4 名

2) 歴史課博物館実習

学芸員課程の学生 6 名を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。2 期に分け通期 10 日間と半期 5 日間を学生が選択。また別に不定期で北九州市立大学の学芸員課程の学生 2 名を計 10 日間受け入れた。

*通期 (7 月 31 日~8 月 4 日、9 月 18 日~22 日)

- ・ 人数 : 3 名
- ・ 所属大学 : 筑紫女学園大学、福岡大学、東京学芸大学 各 1 名

*2 期 (9 月 18 日~9 月 22 日)

- ・ 人数 : 1 名
- ・ 所属大学 : 中央大学 1 名

*不定期 (7 月~10 月までの 10 日間)

- ・ 人数 : 2 名
- ・ 所属大学 : 北九州市立大学 2 名

(4) 職場体験・インターンシップ・職員研修受け入れ

教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行った。

1) 職場体験・インターンシップ

- ・ 北九州市立枝光台中学校 (平成 24 年 7 月 3, 4 日 2 年生 3 名)
- ・ 福岡教育大学附属小倉中学校 (平成 24 年 9 月 4, 5 日 2 年生 4 名)
- ・ 水巻町立水巻南中学校 (平成 24 年 9 月 11, 12 日 2 年生 4 名)
- ・ 広島文教女子大学 (平成 24 年 9 月 19~21 日 3 年生 1 名)
- ・ 北九州市立中央中学校 (平成 24 年 10 月 10, 11 日 2 年生 4 名)

2) 職員研修受け入れ

- ・ 福岡県立大翔館高等学校 (平成 24 年 8 月 8~10 日 教員 1 名)
- ・ 北九州市立門司中学校 (平成 24 年 8 月 8~10 日 教員 1 名)
- ・ 北九州市立向洋中学校 (平成 24 年 8 月 8~10 日 教員 1 名)
- ・ 福岡県立北筑高等学校 (平成 24 年 8 月 22~24 日 教員 1 名)
- ・ 福岡県立太宰府高等学校 (平成 24 年 8 月 22~24 日 教員 1 名)
- ・ 北九州市立青山小学校 (平成 24 年 8 月 22~24 日 教員 1 名)
- ・ 八女市立福島中学校 (平成 24 年 8 月 22~24 日 教員 1 名)

(5) 館外での講演等

依頼を受けた講演会等で市民・一般の方々へ、各学芸員の専門分野の講話や解説を行った。

- ・ 対応件数計：28回・1500名以上に対応
- ・ 主な講演先：小中学校（市内）、高等学校等教育機関（県内外）、各自治体、メディア等

(6) 公務による大学での講義

- ・ 北九州市立大学
「自然史へのいざない」自然史課学芸員全員 受講生約 250名
「北九州学」山根明弘 受講生約 200名
「地球環境概論」武石全慈・真鍋徹 受講生 187名
「人間環境実験実習」太田泰弘 受講生約 10名
- ・ 福岡教育大学
「博物館学 B」太田泰弘 受講生約 20名
- ・ 福岡大学
「博物館学 A」上田恭一郎 受講生約 80名
「博物館学 C」上田恭一郎 受講生約 80名
「博物館実習事前講義」馬場稔 受講生 17名
「博物館学 B」馬場稔 受講生約 70名
- ・ 九州大学
「先端学際科学」森康 受講生約 180名
- ・ 放送大学
「路－北九州の人々の歩みと交流」松井和幸、有川宜博、永尾正剛、日比野利信 受講生 38名

(7) 団体・委員会への就任依頼

- ・ 上田恭一郎（自然史課）
 - ・ 第7期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会委員（北九州市）
 - ・ 山口県立山口博物館協議会委員（山口県）
 - ・ 西日本自然史系博物館ネットワーク「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
 - ・ 希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・ 籾本美孝（自然史課）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会分科会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置全体検討会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置魚類・動物作業部会委員（北九州市）
 - ・ 石川県白山市手取層群化石調査団員
 - ・ 明治学園中学高等学校 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）運営指導委員会委員（明治学園中学高等学校）
- ・ 馬場稔（自然史課）
 - ・ 福岡県環境審議会委員（福岡県）
 - ・ 平成24年度特別天然記念物カモシカ食害対策事業保護指導委員（大分県）
 - ・ 周南市ツル保護協議会委員（周南市）
- ・ 真鍋徹（自然史課）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会分科会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置全体検討会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置植物・鳥類作業部会委員（北九州市）
 - ・ 明治学園中学高等学校 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）運営指導委員会委員（明治学園中学高等学校）
 - ・ 小石原ダム環境保全対策検討委員会委員（水資源機構）
 - ・ 小石原ダム環境保全対策検討委員会クマタカ検討部会委員（水資源機構）
 - ・ 日本景観生態学会編集委員（日本生態学会）

- ・ 日本景観生態学会企画委員（日本生態学会）
 - ・ 日本生態学会九州地区委員（日本生態学会）
- ・ 武石全慈（自然史課）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会委員（北九州市）
 - ・ 福岡県希少野生生物調査検討委員（福岡県）
 - ・ 周南市ツル保護協議会委員（周南市）
 - ・ 板櫃側後肢欠損ガエル調査検討委員会委員（北九州市）
- ・ 太田泰弘（自然史課）
 - ・ 日本洞窟学会事務局長（日本洞窟学会）
 - ・ 日本地質学会理事（日本地質学会）
 - ・ 日本地質学会広報委員（日本地質学会）
 - ・ 日本地質学会西日本支部幹事（日本地質学会西日本支部）
 - ・ 福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）
- ・ 山根明弘（自然史課）
 - ・ 北九州市動物愛護推進懇話会委員（北九州市）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会分科会委員（北九州市）
 - ・ 小石原川ダム環境保全対策検討委員会委員（水資源機構）
 - ・ 宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会委員（宇佐市）
 - ・ 岩国市シロヘビ調査研究委員会委員（岩国市）
- ・ 森康（自然史課）
 - ・ 日本鉱物科学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）
- ・ 下村通誉（自然史課）
 - ・ 福岡県希少野生生物調査検討委員（福岡県）
 - ・ 博多湾環境保全計画推進委員会委員（福岡市）
 - ・ 福岡市新西部水処理センター環境モニタリング委員会委員（福岡市）
 - ・ 西日本自然史系博物館ネットワーク「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
 - ・ 無脊椎動物におけるデータベース作成上の問題点の検討委員会委員（大阪市立自然史博物館）
- ・ 大橋智之（自然史課）
 - ・ 日本古生物学会化石友の会幹事（日本古生物学会）
- ・ 日比野利信（歴史課）
 - ・ 春日市文化財専門委員会委員（春日市）
- ・ 中西義昌（歴史課）
 - ・ 日本建築学会九州支部歴史・意匠委員（日本建築学会）

（８）館長出前授業

北九州市内の小・中学校を対象に専門的な見地から自然科学分野について講演を行うことで、児童生徒の科学に対する興味・関心を高め、生涯にわたって知的好奇心を育てていく基礎と生命を尊ぶ心情を育てることを目的とする。また、いのちのたび博物館の認知度を高め、博物館は身近なものであるという認識を形成し、当館のイメージアップを図る。

- ・ 小学校出前授業
 - 1) 北九州市立浅川小学校（平成 24 年 9 月 19 日）「いのちのたび～いのちはみんなつながっている～」
- ・ 中学校出前授業
 - 1) 北九州市立黒崎中学校（平成 24 年 10 月 9 日）「いのちのたび～いのちはみんなつながっている～」
 - 2) 北九州市立向洋中学校（平成 24 年 10 月 2 日）「いのちのたび～いのちはみんなつながっている～」

1.4. 博物館ボランティア（シーダー）の活動

(1) 人数（平成24年4月1日現在）

- 登録人数 60名 [男性 25名 女性 35名]
 20代 (3名) 30代 (2名) 40代 (3名) 50代 (13名)
 60代 (19名) 70代 (18名) 80代 (2名)

(2) 活動実績

- 延べ日数 283日 (平成24年4月1日～平成25年3月31日リニューアル休館有り)
- 延べ活動回数 2,115回 (平均回35.3/人)

(3) 活動内容

- 館内案内、常設展・特別展解説、スポット解説、ミュージアムティーチャーの体験学習プログラム補助（化石レプリカ・顕微鏡・勾玉・DNA・化石発掘・昔の道具調べ等）、学芸員の普及講座補助、子ども教室・東田サマースクール補助を行う。
- 本館での体験学習が平成23年度より、北九州市立小学校（131校）全ての4年生を対象に行われる「環境体験科」の学習プログラムに組み込まれた。そこで、学芸員の授業やMTの体験活動の補助を行う。
- それぞれの得意分野を生かしての活動として、様々な恐竜や生き物などの「折り紙」、九州の民話から抜粋した「手作り紙芝居」、お手玉・こま回しなどの「昔あそび」、綿の栽培・収穫・糸紡ぎ・機織り体験をする「小倉織」等を行う。

(4) 研修

- 毎月1回の学芸員との「交流ゼミ」を通して、シーダーとしての資質の向上に努めた。

	実施日	人数	講 話 題	話 者
第85回	4月24日(火)	32名	ヒトと人	伊藤 明夫
第86回	5月22日(火)	16名	経筒のはなし ギャラリートーク「大正の子どもたち」	松井 和幸 日比野 利信
第87回	6月14日(木)	12名	石の名は：意外と難しい岩石学の初歩 中・近世の城郭と縄張り	森 康 中西 義昌
臨 時	7月13日(金)	13名	対決！恐竜展解説	大橋 智之
第88回	7月24日(火)	24名	カンムリウミスズメの保護と調査 私がおすすめる当館展示化石標本	武石 全慈 御前 明洋
第89回	8月21日(火)	20名	海岸生物の観察 加藤清正と北九州	下村 通誉 守友 隆
第90回	9月28日(金)	17名	化石が語る魚類の進化 サウジアラビアの人と自然	簀本 美孝 山根 明弘
第91回	10月25日(木)	15名	列島における横穴式石室の導入と朝鮮半島 守りたいもの、守れるもの（ジオパーク活動）	宮元 香織 太田 泰弘
第92回	11月27日(火)	20名	九州のニホンカモシカ最新情報 古美術のみかた	馬場 稔 富岡 優子
第93回	12月19日(火)	24名	復活！？北九州市のガシャモク 小倉の菓子商福田屋	真鍋 徹 上野 晶子
第94回	1月10日(木)	20名	写真に見る北九州市の軌跡 シーダー主催・初釜	日比野 利信 シーダー
第95回	2月22日(金)	37名	博物館建設に参加して 博物館に新しく展示される恐竜・爬虫類たち	上田 恭一郎 大橋 智之

- シーダーバス研修実施

日時 平成25年3月13日(水) 9:00～17:00

場所 九州国立博物館・大宰府天満宮宝物殿・宗像市唐津街道原町

シーダー 31名

職 員 2名 参加

15. 自然史友の会の活動

目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

694名（平成25年3月20日現在）

役員等

会長：小林 繁、副会長：原田隆好・土佐野 実、幹事長：新海義治、事業担当幹事7名、出版担当幹事10名、庶務会計担当幹事4名、会計監査2名、評議員37名、顧問14名

年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円。賛助会員：10,000円

活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー24ページ）
第120号（7月2日発行）：「日本未記録種カロライナツユクサの報告」など7件の調査報告等
第121号（9月1日発行）：「平成24年度総会・研究発表会の報告」など6件の調査報告等
第122号（12月12日発行）：「キジの縄張り宣言」など5件の調査報告等
第123号（3月7日発行）：「曽根干潟でクシテガニを発見」など12件の調査報告等
- (2) 研究部会の活動：例会の実施
地質鉱物（第129～136回例会）、化石（第322～327回例会）、植物（第128～133回例会）、昆虫（データ入力12回）、水生動物（9月から休止）、両生・爬虫類（第160～169回例会）、鳥類（第122回例会）
- (3) 研究部会合同野外観察会の実施
9月23日に北九州市小倉南区昭和池周辺にて実施。参加者51名（大人42名、子供9名）。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施
野外観察会・夏休み教室・バスハイクを10回実施。
- (5) 友の会主催一般市民向けの室内講座「植物細密画を描いてみよう！」の実施
第1回（6月3日、参加者15名）と第2回（10月21日、参加者22名）を博物館にて実施。
- (6) 会員向け友の会講座「顕微鏡で見よう！きれいな石の世界」の実施
7月22日に博物館にて実施。参加者13名（大人8名、中学生1名、小学生4名）
- (7) 会員向け友の会講座「サメ大解剖パート2、ホシザメの体のしくみをしらべよう」の実施
2月3日に博物館で実施。参加者33名（大人12名、高校生1名、中学生8名、小学生12名）
- (8) 研究発表会の実施
4月29日に博物館にて「福岡県北部におけるアオイガイの調査」など13件の発表。参加者129名。
- (9) 会議等の実施
総会（4月29日）、親睦会（4月29日）、評議員会（3月31日）、出版担当幹事会（4回）、事業担当幹事会（2回）、庶務会計担当幹事会（1回）を実施。

16. 歴史友の会の活動

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、正しい古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数

200名（平成25年3月末現在）

役員等

会長：山中英彦、副会長：野口委有、顧問：上田功、会計3名、監事2名、企画担当5名、会員管理担当2名、講座運営担当11名、遺跡見学運営担当7名、広報・会誌編集5名

年会費

正会員：4,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）700円

活動内容（平成24年度）

- (1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- (2) 講演会

日時	講演タイトル	講師	人数
4月28日(土)	東日本大震災と地震考古学	独立行政法人産業技術総合研究所 招へい研究員 寒川 旭 先生	105名
6月23日(土)	元岡遺跡と記年銘鉄剣について	福岡市文化財部 大塚 紀宜 先生	118名
	暦と文字からみる元岡遺跡	九州大学大学院 坂上 康俊 先生	
7月14日(土)	前方後円墳―“形”の“ころ”―	元同志社大学教授 辰巳 和弘 先生	96名
8月25日(土)	加藤清正と北九州 ―「清正公信仰」を中心に―	北九州市立自然史・歴史博物館 守友 隆 先生	84名
	発掘調査から見る鴻臚館	福岡市文化財部 大庭 康時 先生	
9月 8日(土)	西南諸藩の西洋医学―種痘の普及を中心に―	佐賀大学地域学歴史文化研究センター 青木 歳幸 先生	61名
10月27日(土)	歴史の力・文化の力	奈良国立博物館 西山 厚 先生	96名
12月15日(土)	西アジアの考古学	筑紫女学園大学 大津 忠彦 先生	75名
1月19日(土)	三韓時代の考古学	釜山大学校教授 申 敬澈 先生	110名
3月16日(土)	抜歯風習と社会集団	九州大学総合研究博物館 舟橋 京子 先生	95名

(3) 遺跡見学会

日時	場所	人数
5月19日(土)～5月20日(日)	遺跡見学会（松山方面）	29名
6月12日(日)	新入会員見学会 市内及び周防灘沿岸部の遺跡	13名
9月28日(金)～9月30日(日)	遺跡見学会（南河内、大阪府太子町・河南町）	40名
11月11日(日)	遺跡見学会（防府・山口）	43名
2月17日(日)	遺跡見学会（飯塚）	52名

17. 資料の収集保存状況

(1) 自然史課

1) 平成 24 年度資料収集状況

平成 24 年度の自然史資料登録点数は以下のとおりである。

	23年度末累計	24年度登録数					24年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
生物系	77,758	843	0	2	0	845	78,603
地学系	33,798	43	0	2	3	48	33,846
合計	111,556	886	0	4	3	893	112,449

2) 平成 24 年度収集資料の概要

平成 24 年度には、約 22,400 点の標本の寄贈を受けた。また、展示リニューアルに向けた恐竜類の骨格レプリカ標本なども購入した。

主な寄贈標本：福岡県産等植物さく葉標本約 15,300 点、川崎裕一コレクション（昆虫類）4,279 点、木村恒久コレクション（鉱物岩石類）1,705 点など

主な購入標本：逸見石など鉱物資料 6 点、アエンデ隕石など隕石標本 5 点、イヌおよびネコ全身分離骨格標本各 1 点など

主な作成委託標本：子どもが乗れるライオン剥製、コモドドラゴン骨格レプリカ、セイブガラガラヘビ骨格など

(2) 歴史課

1) 平成 24 年度資料収集状況

平成 24 年度の歴史資料登録点数は以下のとおりである。

	23 年度末累計	24 年度の資料収集状況					24 年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系	30,516	0	0	3	0	3	30,519
考古系	43,885	0	0	0	0	0	43,885
合計	74,401	0	0	3	0	0	74,404

2) 平成 24 年度収集資料の概要

平成 24 年度には、山本作兵衛の炭鉱記録画 1 点、吉田初三郎の「若松市鳥瞰図」「戸畑市鳥瞰図」原図 2 点の計 3 点について複製を製作した。これが購入資料 3 点である。

今回は例年に比して寄贈等による資料収集が極端に少ない。しかし寄贈等による受入・登録を前提として調査・整理を進めている資料は少なからずある。できるだけ早期に整理を終了し、次年度に登録を進めていきたい。

18. 資料の特別観覧〈研究他〉状況

番号	担当課	資料名	目的	所属/団体名	閲覧者	人数	閲覧日
1	自然史	ニッパラムシラゴモ標本	大熊千代子コレクションの検索		入江照雄	1	H24.4.17
2	自然史	鳥根県樋口層群産アンモナイト化石	鳥根県樋口層群産アンモナイト化石の研究	御船町恐竜博物館	永田紘樹	1	H24.5.24
3	自然史	アメリカ・モンタナ州産脊椎動物化石	アメリカ・モンタナ州上部白亜系のボーンベッドの研究	福岡大学	川口晋平・田上響	2	H24.4～H25.3
4	自然史	関門層群産脊椎動物化石	関門層群産植物食恐竜類の歯の比較解剖学的研究	福岡大学	中峰桐馬・田上響	2	H24.4～H25.3
5	自然史	関門層群産脊椎動物化石	関門層群産脊椎動物化石の記載	福岡大学	立島潤一郎・田上響	2	H24.4～H25.3
6	歴史	馬場山遺跡銅矛銚片	弥生時代青銅器の研究	國學院大学	柳田康雄	1	H24.4.10
7	歴史	大隈岩雄資料	郷土資料調査	小倉郷土会	千綾光男	3	H24.4.17
8	歴史	豊国名所	特別展に係る資料調査	九州歴史資料館	一瀬智	1	H24.4.25
9	歴史	岩松家文書	白洲灯台の建設史研究		谷川竜一	1	H24.6.1
10	歴史	稲生家文書	郷土史研究(企救郡板櫃村/町史)のため		村上勝郎	1	H24.6.7
11	歴史	旧小倉図書館所蔵小笠原文書	慶応2年小倉戦争を中心とする当時の実態調査		間宮勇雄	1	H24.7.22
12	歴史	武蔵頭彰碑拓本(レプリカ)	小倉碑文の調査	愛知文教大学	村林正義	1	H24.8.22
13	歴史	天親寺山窯跡群資料	資料調査	福岡大学	太田智	1	H24.9.5
14	歴史	旧小笠原玲子氏所蔵小笠原文書 212	將軍御成りの研究(修士論文)	早稲田大学	池ノ谷匡祐	1	H24.9.17
15	歴史	稲生家文書	郷土史調査		村上勝郎	1	H24.9.27
16	歴史	旧小笠原玲子氏所蔵小笠原文書 342	千束藩の研究		池上兼正	2	H24.9.28
17	歴史	奥の細道画卷(安川家資料)	卒業論文研究	東京学芸大学	海塚有里	1	H24.10.13
18	歴史	辰年二月朔日 浮浪召捕之記、浪士名前	郷土史研究		船瀬高子	2	H24.11.22
19	歴史	小笠原忠嘉書状(軸物)	小倉新田藩の研究		池上義雄	1	H24.12.17
20	歴史	中原家文書、小林家文書	菊屋・菊原の調査		藤田浩昭	2	H25.2.5
21	歴史	小倉織袴、小倉織見本帖	小倉織調査	岡谷蚕糸博物館	林久美子	1	H25.3.29

19. 資料の貸出状況

番号	担当課	資料名	点数	貸出先	展覧会名など	貸出期間
1	自然史	北九州市関門層群千石層産カメ化石標本	3	平山康(早稲田大学)	カメ化石の系統学的研究(共同研究の一環)	H24.04.01～H25.03.31
2	自然史	丸木舟	1	徳島県立博物館	海からどんぶらこー海辺の漂着物ー	H24.04.12～H24.06.20
3	自然史	宗像石	1	海の道むなかた館	常設展内の特設コーナー	H24.04.17～H25.03.31
4	自然史	翼竜類標本(実物1点、レプリカ5点)	6	福岡県立恐竜博物館	翼竜の謎ー恐竜が見あげた「竜」	H24.05.23～H24.10.27
5	自然史	アンモナイト標本	18	小松俊文(熊本大学)	薩摩川内市における化石に関する特別展での展示	H24.06.05～H24.10.30
6	自然史	鳥根県ジュラ系樋口層群産二枚貝化石標本	14	永田紘樹(御船町恐竜博物館)	樋口層群産二枚貝化石の研究	H24.06.10～H24.09.30
7	自然史	両生類・爬虫類・哺乳類・節足動物標本	13	萩博物館	危険生物に関する展示会	H24.07.02～H24.09.12
8	自然史	中生代トノボ化石標本	7	神奈川県立生命の星・地球博物館	大空の覇者トノボー一大トノボ展ー	H24.07.10～H24.11.14
9	自然史	マンモスの牙等化石標本	84	日田市立博物館	第8回子どもフェスティバルに伴う化石展示	H24.08.08～H24.08.20
10	自然史	鳥類及び哺乳類剥製標本	13	鞍手町教育委員会	遠賀川流域の歴史と文化ー縄文人のくらしを探るー	H24.10.25～H24.12.28
11	自然史	アミア カルバ(飼育個体)	2	鳥根県立宍道湖自然館	タイムスリップ! ?ー古い魚から新しい魚を見てみようー	H24.12.14～H25.02.28
12	自然史	宗像市産コリフオン類化石標本	14箱	宮田和周(福岡県立恐竜博物館)	新生代哺乳類の分類学的研究(共同研究の一環)	H25.03.20～H26.03.19
13	歴史	重留遺跡出土銅矛レプリカ 北浦庵寺表探の鬼瓦片	3	北九州市立埋蔵文化財センター	埋蔵文化財常設展示「稲作の開始と農村の誕生」 「律令国家と農民」	H24.04.01～H25.03.31
14	歴史	豊前小倉織研究会作成 小倉織袴(No.9)	1	NHK 北九州放送局	春の彩り 伝統の小倉織展	H24.04.9～H24.04.19
15	歴史	宰府守護所下文	1	太宰府市文化ふれあい館 館長 和田有司	太宰府市市制 30周年記念「まるごと大宰府歴史展」	H24.08.21～H25.11.30
16	歴史	小倉碑文拓本複製	1	株式会社NHKフライン 九州支社 支社長 繁竹治頭	大河ドラマ 50の歴史展	H24.07.12～H24.8.12
17	歴史	西洋陶磁器	4	飯塚市歴史資料館 館長 黒河健二郎	長崎街道ー内野宿と飯塚宿ー	H24.09.26～H24.12.9
18	歴史	豊国名所 西国内海名所一覽 木屋瀬瀨図絵馬	3	九州歴史資料館 館長 西谷正	長崎街道ー世界とつながった道ー	H24.10.19～H25.01.10
19	歴史	長迫古墳 横柄板鉄銚留短甲 1 今村清川町古墳 刀子 2 大刀 1 東宮ノ尾5号墳 須恵器坏蓋 4 土師器壺 1	10	行橋市教育委員会 教育長 山田英俊	特別展「大王に仕えた豊の豪族」	H24.10.15～H24.12.21

20. 画像等資料の貸出状況

番号	担当課	資料名	点数	貸出先	掲載紙など	貸出期間
1	自然史	カニ類(剥製)画像	3	株式会社いまじん	ごちそう百景(テレビ東京)	H24.05.11
2	自然史	下関産恐竜足跡化石画像	1	下関市立中央図書館	特製しおり	H24.05.22
3	自然史	『アンモナイトのふしぎ展』展示風景画像など	13	小松俊文(熊本大学)	薩摩川内市における化石に関する特別展での展示	H24.06.05~H24.10.30
4	自然史	平尾台の植物・昆虫パネル	13	小倉南区役所総務企画課	北九州空港における小倉南区をPRするコーナーでの展示	H24.07.11~H24.08.11
5	自然史	メガニューラ復元模型画像	1	日本テレビ	高校生クイズの問題用	H24.08.07
6	自然史	セイスモサウルス画像	1	福音館書店	かがくのとも3月号『きょうりゅうのおおきさってどれくらい?』	H24.12.14
7	自然史	リサーチゾーン・研究室コーナーの展示風景画像	1	雄山閣	人文系博物館学展示論	H24.12.20
8	自然史	対決! 恐竜展展示風景(ティラノサウルスとトリケラトプス)画像	1	福岡県立博物館	震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 会津若松 対決! 恐竜展	H25.01.30
9	自然史	ディメトロン及びペラドン画像	2	小学館クリエイティブ	『小学百科大事典 きつずジャポニカ第2版』	H25.03.19
10	自然史	イグアノン足跡化石画像	1	世界文化社(再利用申請)	『こども科学わくわく新聞』	H25.03.19
11	歴史	梵鐘(浄喜寺蔵)	1	行橋市教育委員会 教育長 山田英俊	企画展「中世の音—今井鑄物師の技」の図録・展示パネル	H24.05.25~H25.08.31
12	歴史	大積神楽 五徳神楽面(文久元年銘)ほか7面	8	福岡県教育庁総務部文化財保護課長 福岡県文化財調査研究委員会委員長	豊前神楽調査研究事業、報告書への掲載	H24.06.21~H24.07.30
13	歴史	宗祇馬上図	1	(財)北九州芸術文化振興財団 理事長 南本久精	『続・海峡の風—北九州を彩った先人たち—』への掲載	H24.07.05
14	歴史	小倉祇園山車 豊国名所 西国内海名所一覧 細川忠興画像(複製) 小笠原忠真画像(福聚寺蔵) 小笠原忠真甲冑(福聚寺蔵) 宝暦年間豊前小倉図 安政年間小倉藩土屋敷絵図 小笠原玲子文書 129・199・255 前田コレクション 錦絵 36-17 二階義入り膳一式 九曜紋入り基盤 小倉藩小笠原家御座船浮世絵 西国筋図巻 小倉織袴・色見本	15	テレビ朝日映像株式会社 代表取締役社長 武田徹	BS朝日「歴史発見 城下町へ行く!」の放映のため	H24.07.24
15	歴史	小笠原忠真画像(福聚寺蔵)	1	社団法人倫理研究所 理事長 丸山敏秋	『新世』10月号特集記事	H24.08.07
16	歴史	宰府守護所下文 宗祇馬上図	2	太宰府市文化ふれあい館 館長 和田有司	太宰府市市制30周年記念「まるごと大宰府歴史展」	H24.08.21~H24.11.30
17	歴史	小笠原忠真画像(福聚寺蔵) 小笠原忠真所蔵具足(福聚寺蔵)	2	株式会社NHKプラネット九州支社 支社長 繁竹治顕	「大河ドラマ 50の歴史展」	H24.07.12~H24.8.12
18	歴史	豊国名所「三館館」「清水血山」	2	(財)北九州芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室長 前田義人	『きたきゅう発掘! 考古学ノート』	H24.09.11
19	歴史	小倉碑文拓本	1	テレコムスタッフ株式会社 代表取締役 寺島高	NHK-BSプレミアム「BS歴史館」第53回での放映	H24.09.26
20	歴史	豊国名所 西国内海名所一覧 木屋瀬宿図絵馬 豊前小倉図	4	九州歴史資料館 館長 西谷正	長崎街道—世界とつながった道—	H24.10.9~H25.01.10
21	歴史	長迫古墳 横板板鋸留短甲 1 今村清川町古墳 刀子 2 大刀 1 東宮ノ尾5号墳 須恵器坏蓋 4 土師器壺 1	10	行橋市教育委員会 教育長 山田英俊	特別展「大王に仕えた豊の豪族」	H24.10.15~H24.12.21
22	歴史	小田宅子夫妻肖像画(個人蔵)	1	中間市歴史民俗資料館 館長 安永日出男	『中間市歴史図録』	H25.03.07
23	歴史	即非・柏巖像(福聚寺蔵)	1	黄檗山萬福寺文華殿 黄檗文化研究所	『黄檗文化』第132号口絵および個人論考掲載	H25.3.20~H25.04.15
24	歴史	木綿地普段着兼用野良着	1	水巻町長 近藤進也	『広報みずまき』4月10日号	H25.03.19

2 1. 学芸員研究業績（自然史）

（1）論文・著書など

- Yabumoto, Y., M. Iwata, Y. Abe, and T. Uyeno (2012) Function of the pseudomaxillary fold in the mouth opening of the coelacanth, *Latimeria chalumnae*. Ichthyological Research, 59(1): 164-168, figs. 1-3.
- 平尾和幸・上野輝彌・藪本美孝・青木建論・浅野弦一・矢野孝雄（2012）鳥取市国府町宮下産の浅海性魚類化石。地球科学：66巻1号，1-4頁，図1-2。
- Yabumoto, Y., Y. Hikida and T. Nishino (2012) *Apsopelix miyazakii*, a new species of Crossognathid fish (Teleostei) from the Upper Cretaceous of Hokkaido, Japan. Paleontological Research, 16(1):37-46, figs. 1-7.
- Nazarkin, M., Y. Yabumoto, and A. Urabe (2013) A new Miocene three-spined stickleback (Pisces: Gasterosteidae) from Central Japan. Paleontological Research, 16(4): 318-328, figs. 1-8.
- Yabumoto, Y. (2013) *Kokuraichthys tokuriki* n. gen. and sp., Early Cretaceous osteoglossomorph fish in Kyushu, Japan. Bulletin of the Kitakyushu Museum of Natural History and Human History, Ser. A, 11: 67-72, figs. 1-3.
- Kamada, S., S. Moteki, M. Baba, K. Ochiai and R. Masuda (2012) Genetic distinctness and variation in the Tsushima Islands population of the Japanese marten, *Martes melampus* (Carnivora: Mustelidae), revealed by microsatellite analysis. Zoological Science, 29: 827-833.
- 安田雅俊・天野守哉・坂田拓司・中園敏之・田上弘隆・馬場 稔（2012）熊本県宇土半島におけるクリハラリス *Callosciurus erythraeus* の繁殖状況（2010年3月～2012年2月）。熊本野生生物研究会誌，(7): 13-16.
- Takeishi, M., H. Okabe, D. Whitworth, H. Carter, Y. Nakamura, and K. Otsuki (2012) Status, distribution and conservation issues of Japanese murrelets in western Japan. p. 57-70. in Kwon, Y. S., H. Y. Nam, C. Y. Choi, & G. C. Bing (eds.). Status and Conservation Efforts on Murrelets. Proceeding of the sixth International Symposium on Migratory Birds. 167 pp. Shinan, Korea.
- 太田泰弘・野井英明・ジオ&バイオ研究会（2013）野外における新しいコミュニケーション・ツールの必要性とソーシャル・シグナルを感受することの重要性について。ジオ&バイオ研究会報告書，(2): 59-65.
- 山根明弘（2012）サウジアラビアの生き物たち。九州両生爬虫類研究会誌。3:17-29.
- Miyazoe, T., M. Enami, T. Nishiyama, and Y. Mori (2012) Retrograde strontium metasomatism in serpentinite mélangé of the Kurosegawa Zone in central Kyushu, Japan. Mineralogical Magazine, 76, 635-647.
- Miyoshi, M., H. Sumino, Y. Miyabuchi, T. Shinmura, Y. Mori, T. Hasenaka, K. Furukawa, K. Uno, and K. Nagao (2012) K-Ar ages determined for post-caldera volcanic products from Aso volcano, central Kyushu, Japan. Journal of Volcanology and Geothermal Researches, 229-230, 64-73.
- Shimomura, M. and K. Kakui (2012) A new species of Stegidotea Poore, 1985 (Crustacea, Isopoda, Chaetillidae) from Japan. Crustaceana Monographs, 17: 303-314.
- Shimomura, M., Y. Fujita, and T. Naruse (2012) First record of the genus Thetispelecaris

(Crustacea: Peracarida: Bochusacea) from a submarine cave in the Pacific Ocean. *Zootaxa*, 3367: 69-78.

Shimomura, M. and N. L. Bruce (2012) A new species of Halacarsantia Wolff, 1989 (Crustacea, Isopoda, Asellota, Santiidae) from Wistari Reef, southern Great Barrier Reef, Australia. *ZooKeys*, 173: 1-9.

Shigeta, Y., A. Misaki, and M. Ohara (2012) *Gaudryceras tombetsense* Matsumoto, a Maastrichtian ammonoid from the Aridagawa area, Wakayama, southwestern Japan. *Paleontological Research*, 16, 244-251.

奥村よほ子・松原尚志・佐藤たまき・大橋智之 (2013) 平成 23 年度陸前高田市立博物館地質標本救済事業参加報告. 化石 93 号, 97-106.

(2) 学会等講演

上田恭一郎 (2012) 「蟲類寫集」について. 昆虫学会, 玉川大学.

上田恭一郎 (2012) 「蟲類寫集」に見られる蝶類の地方名. 蝶類学会, 東京大学.

伏見清香・藪本美孝・池本誠也・真鍋真 (2012) 携帯端末を使った自然史系博物館 web 展示解説の試み. 日本展示学会, 『展示学』 vol.50, 東京学芸大学.

宮田真也・藪本美孝・中島保寿・佐々木孟智・伊藤泰弘・平野弘道 (2012) 北海道産上部白亜系からのクロソグナス目魚類 *Apsopelix miyazakii* の第 2 標本とその意義. 2012 年日本古生物学会年会, 名古屋大学.

藪本美孝 (2012) 北九州市産前期白亜紀リコプテラ目魚類の一未記載種. 2012 年日本魚類学会年会, 水産大学校.

三宅優佳・荒巻美紀・小松俊文・高橋修・重田康成・真鍋真・對比地孝亘・平山 廉・藪本美孝・大橋智之 (2012) 鹿児島県下甕島北部に分布する姫浦層群の脊椎動物化石と地質年代. 2012 年日本古生物学会年会, 名古屋大学.

藪本美孝・真鍋真・松本涼子・坂田智佐子・熊谷賢 (2013) 陸前高田市立博物館でレスキューされた魚類化石について. 第 162 回日本古生物学会例会, 横浜国立大学.

馬場稔 (2012) 北九州域における中型哺乳類、特にアナグマの生息状況の変化. 日本哺乳類学会 2012 年度大会、相模原市 (麻布大学) (ポスター発表) .

平井康之・野林厚志・真鍋徹・三島美佐子・藤智亮 (2012) 博物館空間におけるユーザー視点からの展示評価の実践的研究. 大学博物館等協議会. 2012 年 6 月. 京都大学.

Takeishi, M., H. Okabe, D. Whitworth, H. Carter, Y. Nakamura, and K. Otsuki (2012) Status, distribution and conservation issues of Japanese murrelets in western Japan. International Symposium on Migratory Birds, Mokpo, Republic of Korea.

Whitworth, D., H. Carter, Y. Nakamura, M. Takeishi, S. Sato, and K. Otsuki (2012) Surveys of Japanese murrelets (*Synthliboramphus wumizusume*) at Birojima, Japan, 2012 Annual Meeting of the ornithological Society of Japan. University of Tokyo, Tokyo.

Takeishi, M., H. Okabe, D. Whitworth, H. Carter, and K. Otsuki (2013) Status of Japanese murrelets (*Synthliboramphus wumizusume*) and rats (*Rattus* sp.) at Koyashima and Okinoshima, Japan. Pacific Seabird Group 40th Annual Meeting, Portland, USA.

太田泰弘・石山沙耶 (2012) 北九州市小倉南区高津尾に分布する平板状の石灰岩礫中に産するフズリナについて. 日本地質学会大 119 年学術大会. 大阪府立大学.

野井英明・太田泰弘・梅崎恵司 (2012) 環境倫理に至る野外観察、日本環境教育学会第 23 回. 東京.

太田泰弘・野井英明・ジオ&バイオ研究会 (2013) 生涯学習活動の多様化に伴う、新しい手法に基づく小規模露頭解説の必要性について。日本地質学会西日本支部第 163 回例会。島根大学.

山根明弘 (2012) ノラネコのメスは動かなくていいの？. 日本哺乳類学会 自由集会「うごくオス、うごかないメス」. 麻布大学.

加藤謙一・山根明弘 (2012) ワークショップ「人文系と自然史系博物館の連携」. 国際シンポジウム「人文系と自然史系は博物館の教育連携」. 西南学院大学.

山根明弘 (2013) 「市民とともに」. 日本生態学会静岡大会キャリア支援フォーラム. 静岡県コンベンションセンター.

Mori, Y. (2012) The Takeo Kato Collection of the Meiji College of Technology: An old collection by the pioneer of metallogeny in Japan. 7th International Conference on Mineralogy and Museums. Dresden, Germany.

下村通誉 (2012) 隠れて暮らす微小甲殻類の分類学. 日本動物学会第 83 回大会シンポジウム. 大阪大学豊中キャンパス.

下村通誉・角井敬知 (2012) 鹿児島県甌島列島沖より得られたトガリヘラムシ科 (甲殻亜門: 等脚目: ヘラムシ亜目) の 1 未記載種. 日本動物分類学会第 48 回大会. 東邦大学習志野キャンパス.

御前明洋 (2012) 和歌山県有田川地域の“中部”～上部白亜系大型化石層序. 日本古生物学会. 名古屋大学.

松岡廣繁・平澤聡・大貫巧・丸山啓志・小原正顕・小西卓哉・御前明洋 (2013) 和歌山県有田川町鳥屋城層産モササウルス類化石のタフォノミー. 日本古生物学会第 162 回例会. 横浜国立大学.

富田幸光・大橋智之・金昌柱 (2012) 現生ウサギ科全属の系統解析: 頭骨・下顎・歯列の形態に基づく予察的研究. 地球惑星科学連合年大会. 幕張メッセ.

三宅優佳・荒巻美紀・小松俊文・高橋修・重田康成・真鍋真・対比地孝亘・平山廉・藪本美孝・大橋智之 (2012) 鹿児島県下甌島北部に分布する姫浦層群の脊椎動物化石と地質年代. 日本古生物学会. 名古屋大学.

Tomida, Y., T. Ohashi and C. Jin. (2012) Phylogenetic analysis of extant leporid genera based on morphology of the skull, jaw, and dentition. 4th World Lagomorph Conference, Vienna. Austria.

(3) 外部資金取得状況

【科学研究費補助金】

科研費研究成果公開促進費(データベース) 陸前高田市立博物館の修復被災昆虫標本の DB 入力.
研究分担者: 上田恭一郎 (研究代表者: 多田内修 (九州大学)). 2012 年度.

基盤研究 (C). 携帯情報端末による融合連携ミュージアムを目指したインタラクティブ鑑賞支援システムの開発. 研究分担者: 藪本美孝 (研究代表者: 伏見清香 (広島国際学院大学)). 2010-2012 年度.

基盤研究 (C). 博物館空間におけるユーザー視点からの展示評価の実践的研究. 研究分担者: 真鍋徹 (研究代表者: 平井康之 (九州大学)). 2010-2012 年度.

基盤研究 (C). 新たな自然史資料としての動画の収集・活用手法の構築. 研究代表者: 真鍋 徹. 2011-2013 年度.

基盤研究 (C). 地球科学と考古学を応用した環境教育の原理と効果に関する研究. 研究分担者: 太田泰弘 (研究代表者: 野井英明 (北九州市立大学)). 2010-2012 年度.

基盤研究 (C). 変成/交代反応と変形の連結に関する速度論的研究. 研究代表者: 森 康. 2012-2014 年度.

若手研究 (A). 石製装身具の石材分析からみた縄文社会の地域間交流と農耕化への変遷過程の研究. 研究分担者: 森康 (研究代表者: 大坪志子 (熊本大学)). 2009-2012 年度.

若手研究 (B). 超寄生性甲殻類カクレヤドリムシ類の起源と進化. 研究代表者: 下村通誉. 2012-2014 年度.

【科学研究費補助金以外の補助金】

笹川科学研究助成. 実践研究部門. 白亜紀の北太平洋における付着生物の生息場としての大型アンモノイド遺骸の検討とその博物館展示への活用. 研究代表者: 御前明洋. 2012 年度.

2.2. 学芸員研究業績（歴史）

（1）論文・著書など

- 松井和幸（2013）「弥生時代初期鉄器資料の紹介」『たたら研究』第52号（pp.101-108）。
- 申環煥・李南珪・崔煥珉・松井和幸（2013）「韓日石築形製鉄炉から出土した製鉄関連遺物の金属学的な比較考察」『たたら研究』第52号（pp.101-108）。
- 上野晶子（2012）「東北大学狩野文庫所蔵「阿蘭陀料理について」」『会誌食文化研究』第8号（pp.1-10）。
- 守友 隆（2012）「長崎街道黒崎宿の春日神社と福岡藩黒田家—黒田長政の神格化と福岡藩主の参詣」『福岡地方史研究』第50号（pp.24-38）。
- 守友 隆（2013）「九州大学所蔵・貝原益軒著「御家人先祖由来記」諸本の紹介—黒田孝高（官兵衛・如水）・長政・忠之に仕えた家臣たちの由緒書」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類 歴史』第10号（pp.27-60）。
- 中西義昌（2013）「城郭の縄張り構造と天正中・後期の北九州」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類 歴史』第10号（pp.1-26）。

（2）学会等講演

- 松井和幸（2012）「北部九州の弥生文化—企救の国の青銅器文化を中心として—」東京国立博物館 平成館・大講堂。

（3）外部資金取得状況

【科学研究費補助金】

- 基盤研究（C）. 考古学から見た中世鋳物師の総合的研究. 研究代表者：松井和幸. 2011-2013 年度.
- 基盤研究（C）. 近代日本における企業家の社会史—政治・経済・文化—. 研究代表者：日比野利信. 2012-2014 年度.
- 若手研究（B）. 東アジアにおける環鈴の基礎的研究. 研究代表者：宮元香織. 2011-2012 年度.
- 若手研究（B）. 近世後期日朝間における情報流通の研究—対馬藩宗家史料を素材として. 研究代表者：守友隆. 2012-2014 年度.
- 基盤研究（S）. ユーラシアの近代と新しい世界史叙述. 研究協力者：上野晶子（研究代表者：羽田 正（東京大学東洋文化研究所））. 2009-2013 年度.
- 基盤研究（B）. 日蘭関係史の再構築. 研究協力者：上野晶子（研究代表者：松方冬子（東京大学史料編纂所））. 2010-2013 年度.

23. 博物館刊行物

(1) 研究報告 A 類 自然史 第 11 号 (2013 年 3 月 31 日発行)

Seiki Yamane. A review of the ant fauna of the Krakatau Islands, Indonesia, pp. 1-66.

Yoshitaka Yabumoto. *Kokuraichthys tokuriki* n. gen. and. sp., Early Cretaceous osteoglossomorph fish in Kyushu, Japan, pp. 67-72.

(2) 研究報告 B 類 歴史 第 10 号 (2013 年 3 月 31 日発行)

【論文】

中西義昌「城郭の縄張り構造と天正中・後期の北九州」(pp. 1-26)

【資料紹介】

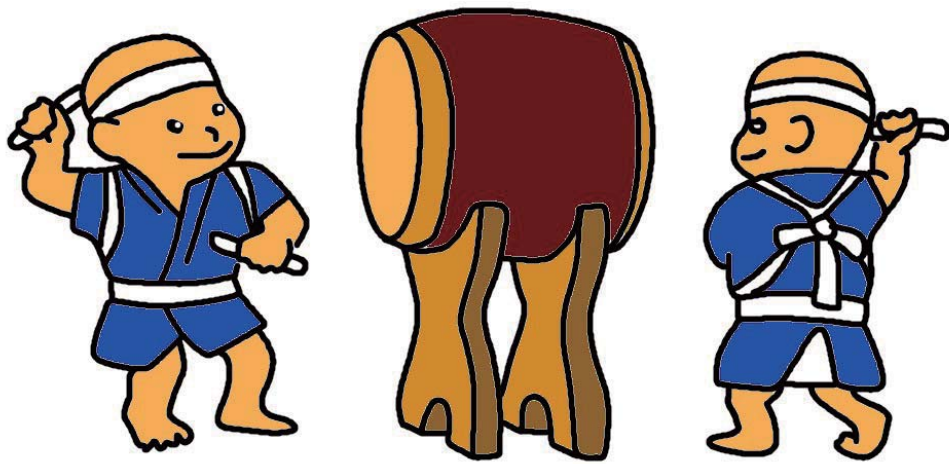
守友隆「九州大学所蔵・貝原益軒著「御家人先祖由来記」諸本の紹介 —黒田孝高(官兵衛・如水)・長政・忠之に仕えた家臣たちの由緒書」(pp. 27-60)

(3) 図 書

図録『北九州市制 50 周年記念展 北九州市の宝もの』(2013 年 3 月 31 日発行)

年 報
平成 24 年度

発行日 平成 26 年 3 月 31 日
編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館
北九州市八幡東区東田 2-4-1
TEL. 093-681-1011
FAX. 093-661-7503
<http://www.kmnh.jp>
北九州市印刷物登録番号 第 1308125A 号
印刷・製本 特定非営利法人 夢追いバンク



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY